

武蔵野美術大学
建築学科
学科紹介 2025



建築ってなんだろう？

居場所と環境をつくり、社会に新たな価値を創造します

建築には良質な環境をつくり、人々の活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、まち、地域、都市... という特徴をもった環境は互いに関係しあっています。建築はその全体を扱います。身近で永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組みや価値観を語る存在といえます。

建築を考え、つくることは、このような社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。

ムサビ建築学科

住宅から都市、アートまで 人の営みを建築の視点から考えます

ムサビ建築学科では、環境や社会への視点と同時に、美術大学ならではの特徴を生かし、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求と創造を目指します。学生は美大という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎を学び、工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を統合するものとして建築デザインを学びます。多様なスタジオでは建築、インテリア、ランドスケープそしてアートまで、興味を深めることができます。

建築学科で学べる領域

私たちの体験する環境すべてが対象です

建築学科で学ぶことは、単に建物をつくるための技やデザインだけではなく、人がその一生をかけて体験するすべての環境が、学びの対象になります。

建築デザイン / 都市デザイン / ランドスケープデザイン /
住宅設計 / 空間デザイン / 建築理論 / 環境計画 / 市街地再生 /
インテリアデザイン / コミュニティデザイン / 構造デザイン /
ワークショップ / 建築とアート / インスタレーション

カリキュラムの特徴

「設計計画」を軸に 4 年間学びます

教育の大きな軸は、4 年間必修の「設計計画」。

「設計 = design」と「計画 = planning」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための演習課題です。講義で身につけた知識・技術を「設計計画」の課題に集約、統合させるように、豊かな創造性を育むカリキュラムが工夫されています。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目も開設されています。

スタジオ制

3・4 年次の学びは個性を伸ばし 自分の関心と興味を深めます

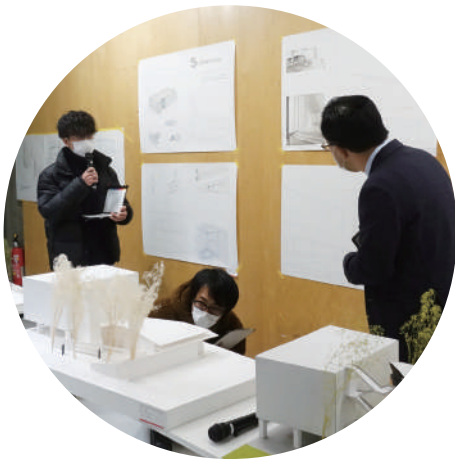
3 年次以降の設計演習 (設計計画 III・IV) とゼミ (卒業論文・卒業制作指導) は、各教員が主宰する特色あるスタジオ単位でおこなわれます。学生は自分自身の関心をもとにスタジオを選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていくことができます。共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、社会へと目を向けていく場にもなります。4 年次は所属スタジオをホームベースに、卒業制作や進路の決定に臨みます。

造形の各分野を広く学ぶ

1 年次は絵画・彫刻・デザインなど、造形の基礎を広く学ぶことから始まります。他学科開設の実習科目が選択でき、建築に隣接するデザインに触れる機会も得られます。建築史をはじめ美術・デザインの理論や歴史に関するさまざまな講義科目が体系的に整い、1 年次から自由に選択できます。建築学科が開設する科目では前期には建築設計基礎、図学、建築設計表現により建築デザインの基礎、表現技法を学びます。後期からは、4 年間を通して学科の中心科目となる「設計計画」(建築設計演習)が始まります。同時に、建築士資格に必要な構造力学、構造デザインなど工学的内容の授業も 1 年次から始まります。工学部建築学科のカリキュラムに比べ、造形教育、建築デザイン教育に重点が置かれ、1 年を通して造形力・表現力の基礎を身に付けていきます。前期・後期の終わりには外部講評者を招き、1 年次から 4 年次までの優秀作品を一堂に会して発表・講評する「パーティカルレビュー」を行います。



【前期】
建築設計基礎
図学
建築設計表現



【後期】
設計計画Ⅰ-1
設計計画Ⅰ-2

演習系科目
造形総合・彫刻
造形総合・絵画
建築設計基礎
図学
建築設計表現
設計計画Ⅰ-1
設計計画Ⅰ-2

講義系科目
[建築の計画・技術を学ぶ]
構造デザイン
構造力学基礎
基礎数学

専門に向けて基礎を学ぶ

2 年次の建築設計演習「設計計画Ⅱ」では、住宅や公共的な機能をもつ建築の設計課題に取り組みます。講義科目で学んだ知識を生かして、自然環境、生活、社会、文化といった側面にも着目し、建築デザインを多面的に深く考えることを目指します。2 年間で建築デザインの基礎、表現技法とともに、計画・設計の方法を身につけます。講義科目では、多様な専門科目が開講されます。建築計画、建築構法、建築材料学・実験、計画原論といった建築学の各分野におけるベーシックな必修科目を通して、ひとつの建築ができあがるまでに必要とされる知識をしっかりと学びます。これらの授業を通して造形としての側面に加え、技術や性能、生活や文化など建築をめぐるさまざまな側面について、理論や実践例に接していきます。また、建築デザインにとって、環境という視点、造形という視点が重要であると考え、2 年次から建築計画など学科独自の講義が始まります。



【前期】
設計計画Ⅱ-1



【後期】
設計計画Ⅱ-2

演習系科目
設計計画Ⅱ-1
設計計画Ⅱ-2

講義系科目
[建築の意匠・理論を学ぶ]
文化総合・日本建築史
文化総合・西洋建築史
文化総合・近代建築論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築計画 / 計画原論 / 建築構法
構造力学 / 建築材料学・実験
[造形・環境を学ぶ]
造形演習 / 写真表現

スタジオで深く学ぶ

3 年次から「設計計画」はスタジオ選択制となります。独自のテーマをもつ 8 スタジオ (前期 4 スタジオ・後期 4 スタジオ) から各期 1 スタジオずつを選択して学びます。分野としても建築デザイン、環境造形、ランドスケープデザインなど多岐にわたり、テーマの異なる 2 つのスタジオで学ぶことで、自分の関心のあるテーマを模索、発見し、個性を発揮していくきっかけとなります。講義科目では 2 年次に学んだベーシックな科目内容をより深めた計画・構造などの科目群、実務に必要な施工・法規・設備などの科目群、さらに建築意匠、ランドスケープデザイン、都市デザインなど、領域を広めた科目群が開かれ、スタジオ選択と関連づけて履修することができます。



【前期】
設計計画Ⅲ-1
高橋スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
小松スタジオ



【後期】
設計計画Ⅲ-2
布施スタジオ
小西スタジオ
國廣スタジオ
長谷川スタジオ

演習系科目
設計計画Ⅲ-1
設計計画Ⅲ-2

講義系科目
[建築の意匠・理論を学ぶ]
建築意匠 / 建築概論
[建築の計画・技術を学ぶ]
建築施工 / 建築法規 / 建築設備・実験
[造形・環境を学ぶ]
都市デザイン / 環境計画 / 基礎造形
ランドスケープデザイン概論

スタジオから社会へ

4 年次には 1 年間を通して 1 つのスタジオに所属します。スタジオでの時間は、進学・就職・海外留学など各自の進路へと漕ぎ出す、未来への旅立ちの第一歩となります。「設計計画Ⅳ」では空間やものづくりに関わるさまざまな視点から、スタジオの教員と非常勤講師のコラボレーションにより社会における建築や環境のデザインを意識した課題が出題されます。各スタジオのテーマを深化させた課題を通して、各自が将来どのように建築と関わっていくかを考えます。卒業制作は最も重要な創造・表現の場です。スタジオで指導教員や仲間たちとディスカッションを重ねながら制作を進めます。まず前期には自身の関心を卒業研究にまとめ、後期には研究を足がかりにこれまで蓄積した思考やデザインの力を展開し、4 年間の集大成となる表現として卒業制作に取り組みます。スタジオではこの他にもプロジェクトや見学会などの活動も行なっています。



【前期】
設計計画Ⅳ
高橋スタジオ
布施スタジオ
小西スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
國廣スタジオ
長谷川スタジオ
小松スタジオ



【後期】
卒業制作
高橋スタジオ
布施スタジオ
小西スタジオ
菊地スタジオ
持田スタジオ
國廣スタジオ
長谷川スタジオ
小松スタジオ

演習系科目
設計計画Ⅳ
卒業制作

講義系科目
[造形・環境を学ぶ]
ランドスケープデザイン近代史
庭園史

短期課題

200㎡の家

この課題は、建築設計基礎・図学・建築設計表現で習得した技法を自らのデザインで実践するためのものである。

敷地・条件等: 敷地は東京郊外の住宅地。南側に緑豊かな公園が位置する。住宅の規模は 200㎡。平面・断面等の形状は自由に想定。

ただし、階段を設置すること。家族構成は夫婦とする。

提出物

図面: A3 用紙 2 枚以上に下記の内容をレイアウト。表現方法は各自設定。

・配置図 S=1/100 1 階平面図を兼ねる

・各階平面図 S=1/100

・立面図・断面図 S=1/100 各 1 面以上

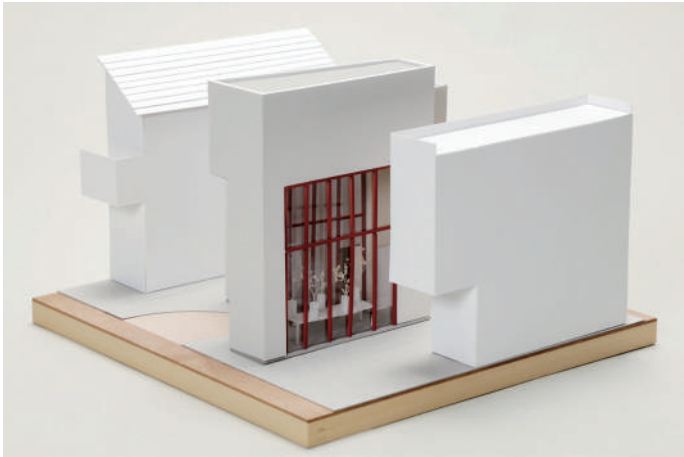
・その他設計の説明に必要な図(スケッチ、ダイアグラム等)、設計趣旨

模型: プレゼンテーション模型。材料及び表現方法は各自設定。

スケールは S=1/50



新井 花菜「1 つ屋根の下」



鈴木 陽太郎「越境する家」



富士本 峻「Bulge house」



原田 周歩「HOUSE TYPE ONE」



城市 廉平「借景する家」



牧野 瑠「together」

道沿いの展示空間

武蔵野美術大学鷹の台キャンパスを二分する新しくできた道路(小平 3・3・3 号線)に面する 13 号館横の駐輪場に、ギャラリーを計画する課題である。このギャラリーは学内者だけでなく、キャンパスへの来訪者、近隣住民、道路を通学路に使う学童などが立ち寄れる開かれた性格を持つものとする。また、このギャラリーは「境界」を意識した計画とすること。「境界」とは、関係性や繋がりの中に存在する。ここでは大学と地域、来訪者と学生、外部と内部、作品と鑑賞者などなど、様々な関係性が考えられる。そのような関係性のデザインから生まれるギャラリーを設計しなさい。

設計条件

1. キャンパス外からの来訪者も迎えるギャラリーの計画。

2. 展示用空間(室内)は 100㎡程度とし、外部空間も提案すること。

3. 展示物はある期間ごとに変わることを前提とする。

4. 「境界」の意図を明確にし、図面には道路との位置関係を示すこと。

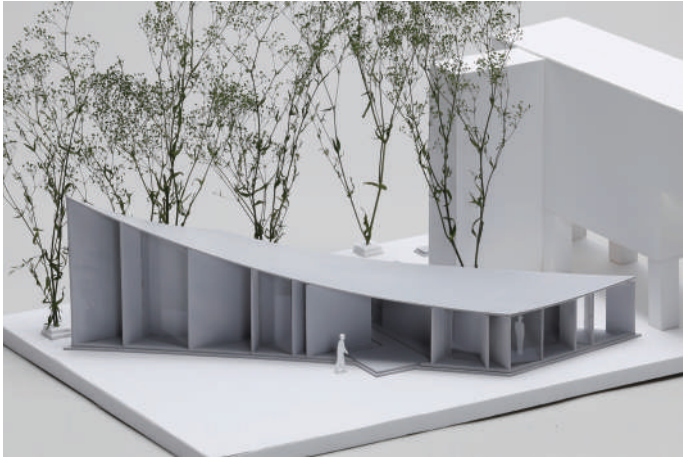
5. 敷地内の樹木は伐採しないこと。



ゴ フィウオン「地域とつながる」



佐久間 悠吏「Layers」



チン キシュン「森のギャラリー」

公園の中のカフェ

上水公園の中に「カフェ」を設計してください。人が感じる時や空間には、身体的または心理的な様々な要素が影響します。それら人の感情に影響を与える空間、それを成り立たせるシステムやディテール、環境などを考慮しデザインしてください。また、カフェとしてトイレや厨房などのサーバント・スペース(サポートする空間)も必要になります。「カフェ」とは、どのような建築・空間なのか、自分なりの答えを表現してください。

設計条件

1. 別紙で指定する敷地内に計画すること。

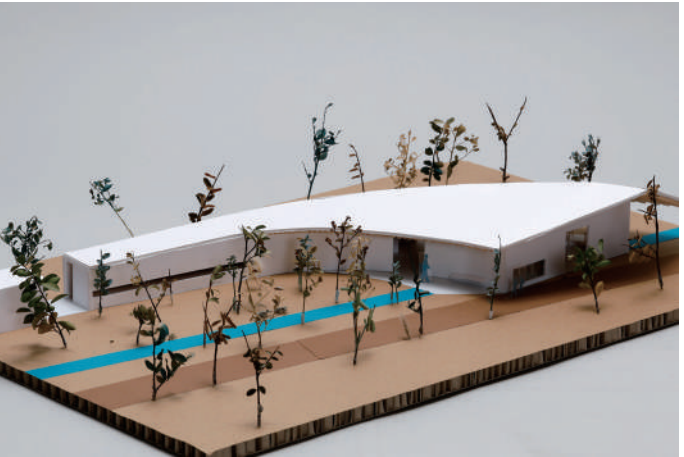
2. 延床面積は 150㎡以内とし、外部空間も提案すること。

3. 階数は 2 階建てまでとする。

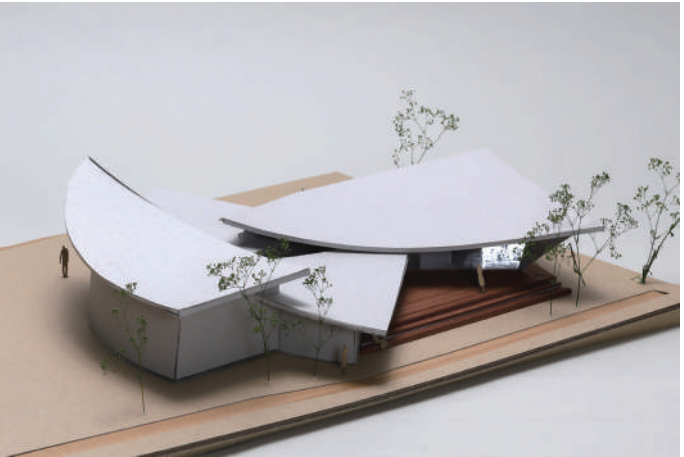
4. 適切なサイズのトイレ、厨房、事務室などを計画する。

5. 構造は自由とする。

6. 敷地内のレベル差は、ないものとしてもよい。



近藤 結「とどまり」



古谷 都乃「yoridokoro」



森北 智巳「足を止めて」

第一課題

小平小川町の住宅

武蔵野美術大学小平キャンパス北に位置する敷地に住宅を計画・設計してください。敷地は南・西で畑地に接し、北側は小川用水を挟んで邸宅の庭に接しています。南の武蔵野美術大学校地との間には、現在、畑地からなる生産緑地が広がっています。新たに住宅やアパートが区画ごとに計画されつつありますが、そのほとんどは畑地と無関係に計画されています。

青梅街道南にある既存の住宅と畑の間にある今回の敷地に「畑地と共生する住宅」を提案してください。

タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。

設計上の留意点

- ・景観・方位・季節の変化・日射採光通風・樹木・プライバシーと外に開くこと
- ・構成に合う構造形式
- ・南側の畑地は残る前提とする



島川 樹汰「石の棲家」



田村 渚歩「斜め格子の家」



松本 詩音「◇□Y」

第二課題

小規模集合住居

都心エリア駅近の利便性高い場所に、延床面積 400㎡の集合住居を計画・設計しなさい。集合住居の形式は、共同住宅・シェアハウス（共用空間があるもの）または長屋（共用空間がないもの）どちらも可とするが、「コモン」についての考えを各自何らか表現しなさい。カフェやオフィス、集会場など、有用と考える施設を併設しても良い。タイトル（テーマとなるキーワード）を決めること。

設計上の留意点

- ・ユニットプランとその組み合わせ方（構成の型）
- ・日射採光通風
- ・周辺環境との関係性
- ・プライベート・コモン・パブリック（他者との関係性）
- ・構成に合った構造形式



大西 明日香「心理的距離の概算」



田口 真帆「見せて、魅せる暮らし」



宮下 海輝「Art House」

第一課題

木造の駅舎 ―木造軸組架構から考える

高尾登山鉄道の清滝駅は、高尾山へ向かうケーブルカーの乗り口である。京王電鉄の高尾山口駅を出てしばらく歩くとここに着く。高尾山は年間の登山者数が 260 万人を超え、世界の登山者数を誇る山である。低山ながら多様な植生などに恵まれ、都民の憩いの場となっている。現在、三角屋根の清滝駅がある。そこを敷地と設定し、新しい清滝駅を提案しなさい。また駅前広場も設計するものとする。

条件

規模：建築面積は現状程度

構造形式：木造軸組で、基本平屋と一部 2 階を設けてもかまわない。

駅舎機能：切符売場、改札、待合、ホーム、トイレ、事務室ほか。

ホームは同位置とし、横にあるリフトの駅舎は課題の対象とはしない。

＋α機能：高尾山でのアクティビティと連動可能な施設を複合させる。

用途は各自設定。半屋外空間は提案可能だが、必ず屋内空間も組み込むこと。



北林 裕雄「線を引く」



塩津 ジョアンナ 慧夏「transparency」



瀬戸口 照「領域をつなぐ」

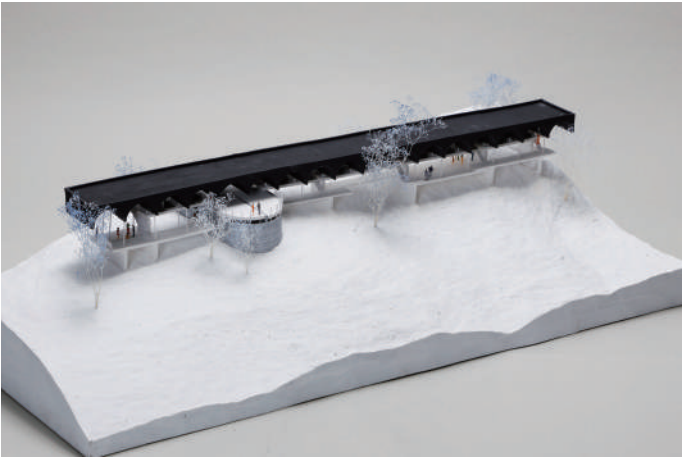
第二課題

新たな世代のための宿泊研修施設

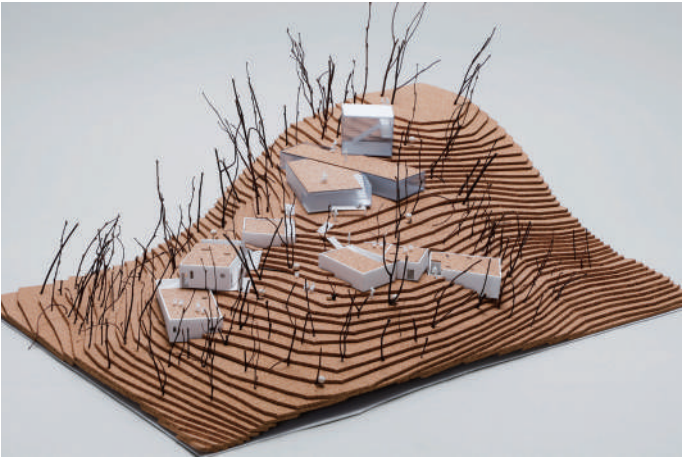
場所は、八王子の山の中にある大学セミナーハウス。この大学協同の宿泊研修施設は、吉阪隆正によって配置計画並びにさまざまな研究棟およびそれに付随する施設が設計された。近年老朽化を理由に一部が取り壊され、原設計に見られたユニットハウスといわれる分散型の宿泊棟は大部分が姿を消し、吉阪建築を愛する人々にとっては心苦しい状況となっている。この施設ではさまざまなタイプの共同生活を想定した建物があり、学生や先生がそこにある期間滞在し、研究発表などを通じて交流し理解を深めることのできる空間となっている。

今回の課題は、指定された範囲内に下記の機能をもつ建物あるいは建物群を設計する。敷地は、傾斜の激しい部分、平らな部分を含むが、各自、自分の計画にあった敷地を想定し完成させること。

1.40 名が宿泊できること。2. 研究発表などができる集会室。3. サークルの合宿を具体的に想定する。4. 自炊設備、洗濯、共同の浴室。5. 屋外 BBQ スペース、それに必要な設備等。



須田 道成「valt+landscape」



ダイ クン「Fading Boxes」



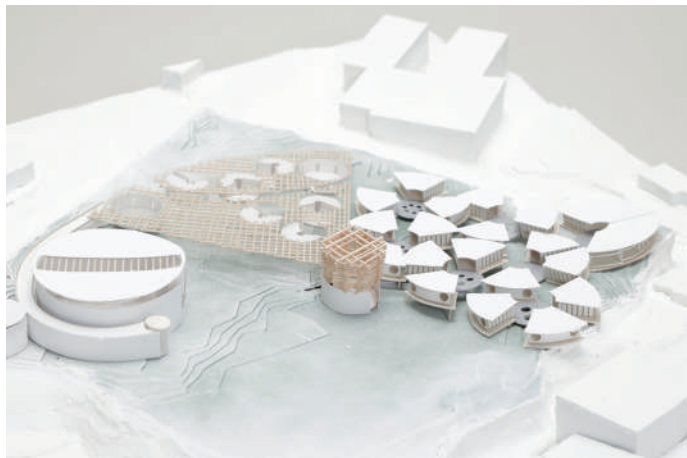
保坂 健心「passaserny communication connectives」

持田スタジオ

地域にとっての学びの拠点

社会や学びが劇的に変化する中、建築は人間の感覚や意識に作用して、新しい行動を生むことができるでしょうか。オンラインで多くの情報をインプットできるようになり、子供だけではなく大人も生涯学び続けることが必要なこれからの時代に、わざわざ学校に集まって実空間で学ぶこと、本来地域の固有性と切り離せない関係である学校は、これからどのような学びの場となることができるでしょうか。

これからの小学校の可能性を、人間の感覚に作用する環境的な視点と、その環境を共有することで生まれる地域固有性の両面から考えてもらいたと思います。自分の出身小学校（もしくは現居住地近くの小学校）を敷地として、その環境を積極的に選んで住もう人々が学び、働き、その価値を共有する「地域にとっての学びの拠点」となる小学校を構想してください。可能なかぎり現地に行って、敷地や敷地周辺の環境、地形、文化、歴史などのリサーチから着想し、想像力を発揮した建築デザイン、環境デザイン、地域デザインの重奏的な提案を期待しています。



乾 華乃「人を集める木の小学校」



鈴木 隆之介「堀の再興」



藤井 杏莉「レイライン」

高橋スタジオ

都市の環境単位 ―富ヶ谷

都心では、巨大再開発によって、既存の周辺と不連続な環境単位が出現し続けている。一方で、界限性をもちコンテキストが豊かなエリアには、その自然発生的で時間をへた資源が再評価されながら、ところどころに課題を抱える環境単位も存在し続けている。

対象エリアの中で、ひとつの建築的実践によって周辺との関係性が再構築され、あらたな風景や人の行為が生まれるような場所に、建築を構想し設計しなさい。

対象エリアは富ヶ谷。渋谷や新宿が徒歩圏内。代々木八幡駅と代々木公園駅がある利便性と、代々木公園の緑豊かな環境が両立する。大通りから一步入ると遊歩道や小路が折れ曲がりながら連なり建物の規模や建ち方も多様。「パブリック性の高い用途（内容は自由）＋住居（単身、家族、シェア、SOHO、ゲストハウス）」を各自で設定する。規模は敷地の法的与件内で実勢を把握しながら適切に計画する。敷地内で完結せず、周辺のコンテキストに対する積極的介入を必須とする。



岩永 小春「hodgepodge」



手塚 熒太「reviewology」



目時 誠太郎「fluctuation of matter」

小松スタジオ

マテリアルから空間まで

「マテリアル」についてリサーチ・実験・考察をします。既存のマテリアルでも独自の捉え方や加工方法、組み合わせにより、新たな魅力を引き出す事ができるでしょう。みずから手を動かして新たなマテリアルを開発しても構いません。そしてマテリアルに内在された時間や物語、かたちからも着想を得て、空間へとつながる作品を制作してください。作品は、プロトタイプとグラフィック・模型でのプレゼンテーションをはじめ、インスタレーション、立体造形、平面作品、映像作品など、自由な表現形態から、建築的表現を試みてください。



鴨下 莉子「pull up!!!」



小松 美海「舞い落ちる」



谷口 理咲「Crumple」

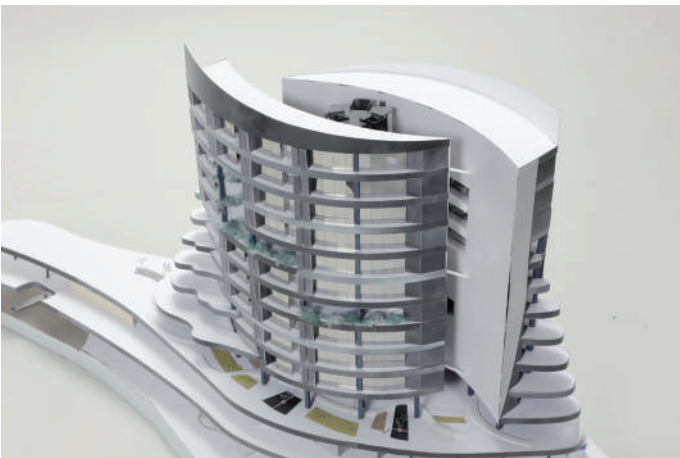
菊地スタジオ

神宮前に作るストリートカルチャーのギャラリー & ホテル

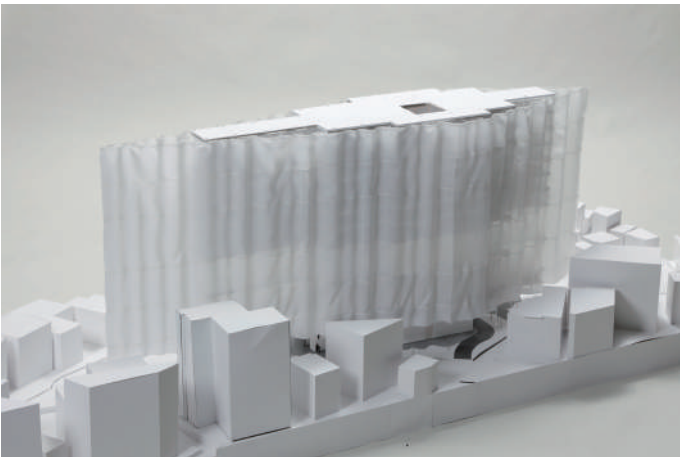
この界隈は、ストリートカルチャーの重要な発信拠点としていつの時代も重要な役目を果たしてきた。現在は、渋谷、表参道、原宿、神宮前、竹下通り、明治通り、キャットストリートと広範囲にわたって町同士が接続し、町としても新陳代謝を繰り返しつつ発展してきている。そして、2021 年の東京オリンピックに合わせて新国立競技場が千駄ヶ谷にできたことを契機に人の流れは大きく変わろうとしている。外苑前駅、千駄ヶ谷駅、信濃町駅だけではスタジアムの人の流れを裁ききれないだけでなく、キャットストリート、外苑西通り（通称キラードリ）を中心にスタジアムと神宮前を繋ぐ重要な拠点として生まれ変わるだろう。そこでこの敷地を都市的文脈をふまえつつ、過去と未来を繋げるストリートカルチャーを扱ったギャラリーと外国人旅行客用のホテルを提案してほしい。



増田 礼登「Swell tokyo」



柳沼 胡来奈「Hotel」



山賀 紇生「境界体」

鈴木スタジオ

HABITABILITY WITH URBAN SOIL

西大井の住宅地の質や既存のタイポロジーを維持しながら、土と共存する暮らしに必要な施設、インフラ、サービス、コミュニティについて考えてください。例えば土と人間が共存する暮らしとは、食や排泄と土との関係を再構築することです。具体的には住民が食べ物の生産を地域の中で行い、生ごみや排泄物を堆肥にするなどです。しかしこうした農的な暮らしを都市の中で行うことには多くの障壁があります。まずは栽培したり分解したりする土が不足しています。都市の中で糞尿を処理するためにはどれくらいの土が必要なのかまだ見積もられていません。また分解するための施設とはどのようなものなのかまだ明らかではありません。土壌や土の中にいる生命との共存は、テクノロジーで完全に制御することではなく、うまく絡まり合うことです。土を起点にした循環を住宅地の中に構築してください。



安達 飛鳥「地と人と、そしてまた土と」



海藻 美緒「食循環ラボ」



土屋 千里「連」

布施スタジオ

敷地選択型住宅プロジェクト—住宅+αの新しい可能性を提案する

敷地選択型の住宅 + α のプロジェクトである。自分が事業主となり、土地を選定して住宅 + α を設計しなさい。事業主である自分の自邸 + α でもよいし、クライアントを設定した住宅 + α でもよい。決められた敷地ではなく、計画する建築に最適な敷地選定から参画するプロジェクトだから出来る住宅 + α を設計しなさい。自ら設定した敷地と建築的テーマに基づいて住宅 + α の用途を併設して出来る住宅の新しい可能性を提案すること。

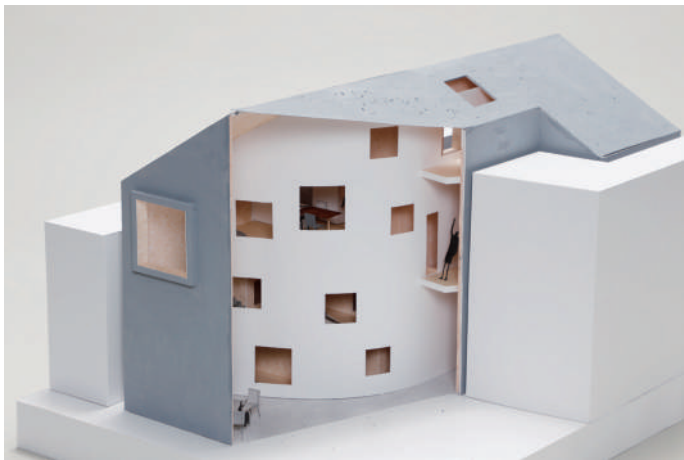
設計条件

不動産 WEB サイトから下記の条件を満たす敷地を選定すること

- ① 地域：各自の生活圏内
- ② 価格：8000 万円以内
- ③ 延床面積 100㎡以上が可能であること



鈴木 碧恋「間の家」



山賀 紬生「人による風景」



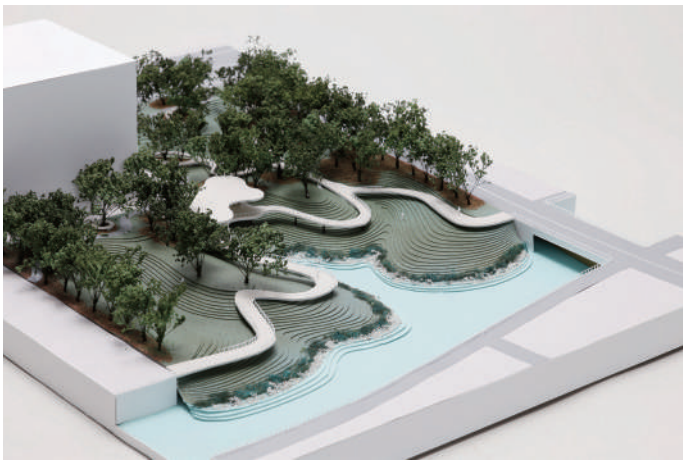
岩永 小春「都市の下草ハウス」

長谷川スタジオ

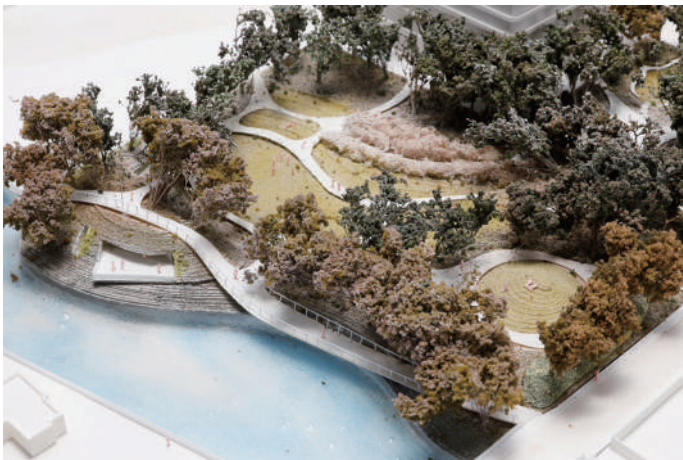
URBAN FOREST

敷地は品川の子供の森公園。前面に目黒川が流れ、これも敷地の一部として扱います。学校や住宅地が広がるエリアの一角です。敷地内には既存の樹木もあり、これらも活かしながら「都市の森」をデザインしてください。都市の森とは、私たちが都市生活を送る中で身近に使い、滞在し、さまざまに使える森であると同時に、都市の生態系にも寄与するものとします。

まず、森について学ぶ。山の森と都市の森の違い、共通点は何か。生態系についての基礎知識を学ぶ。次に都市公園の存在について考える。「都市の中の反都市」として都市生活者にとってどのような場所でありアクティビティを提供できるのか？ 遊び、仕事、勉強、スポーツ、キャンプ、アウトドアアクティビティ—さまざまな都市活動を森の中で行うことの意義を考える。さらに川についても考えたい。川もまた都市の中の自然であり、同時に都市の重要なインフラでもある。森と川が一体となって、どのような空間が生まれるだろうか。ここでしか生まれない、ここを目指して人が集まるような、インパクトのある公園を提案してほしい。



池亀 紀華「入江と岬のある公園」



ル イースアン「見えがくれー風景や関係性の再編集」



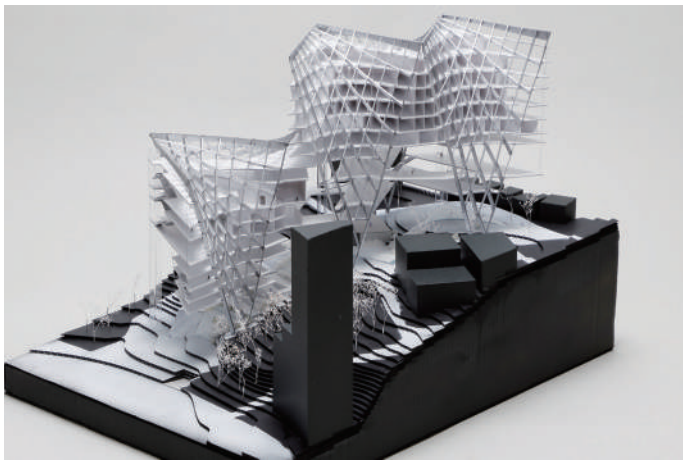
村上 怜那「in the Spotlight」

小西スタジオ

傾斜地にたつ複合施設

近年、熱海は海も山もあり、リゾート気分を味わいつつも品川から 38 分で行けるアクセスの良さからテレワークやワーケーションの場としても人気を集めています。また、若年層の旅行者や移住者が増えて、新しいホテルの建設や遊休不動産の活用などが進んでいます。観光・商業施設が整備される一方で、住みよい町としての整備は停滞しており、公共施設は老朽化が進み、大規模修繕や建替えなど整備が望まれています。しかしながら、市の厳しい財政状況もあり、将来にわたって維持し続ける公共施設を複合化し、共有面積や維持管理費用を削減する必要にも迫られています。

これらの背景を踏まえ、今回の課題では宿泊施設と公共施設の複合施設を計画します。住民と住民、旅行者と住民が新たな交流を生むような、賑わいのある空間の提案を求めます。また熱海は「背山臨水(はいざんりんすい)」の地形で、山から海へ向かってすり鉢状の地形です。敷地は高低差 30m の熱海グランドホテルの跡地となります。サンビーチに面したローケーションを活かしながら、魅力ある空間を計画してください。



市川 雄大「s/H」



加藤 英祐「熱海のヒエラルキー」



増田 礼登「エイトレイヤアタミ」

持田スタジオ

「微環境」をまなぶ・よむ・つくる

この課題では、これまで人間が築いてきた空間の環境を、居心地を構成する要素ごとに分析的に見直す練習をした上で、ある特有の質を持ったエリアを、自分のからだ（主観）と各種の環境パラメータを測定できる機械（客観）を用いて、さまざまな「微環境」をよみこむ。そして、発見された居心地のいい場所 / よくできそうな場所のなかから敷地をえらび、その場所の特質をふまえたプログラムと居場所の設計に取り組む。

設計条件

敷地：エリア各所の環境分析をした上で、各自選定する

機能：設計した環境をもっとも使い倒せる機能を各自構想する

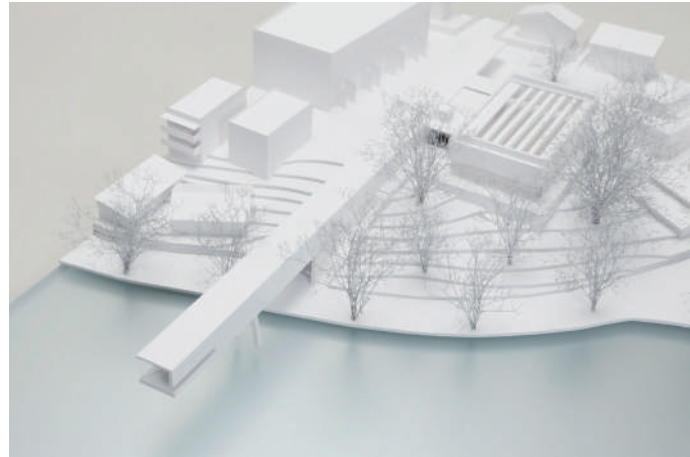
規模：500㎡以上

その他：敷地固有の居心地を前提に設計する

新築であること（既存建物は参考にしてよいが、設計は更地に行う）

地形・擁壁・水辺など人工 / 自然を問わず土木的な要素は取り込んでよい

棟数・内部外部の比率などは自由



飯島 裕也「INTAKE」



尾関 慧一「ハレノヒ」

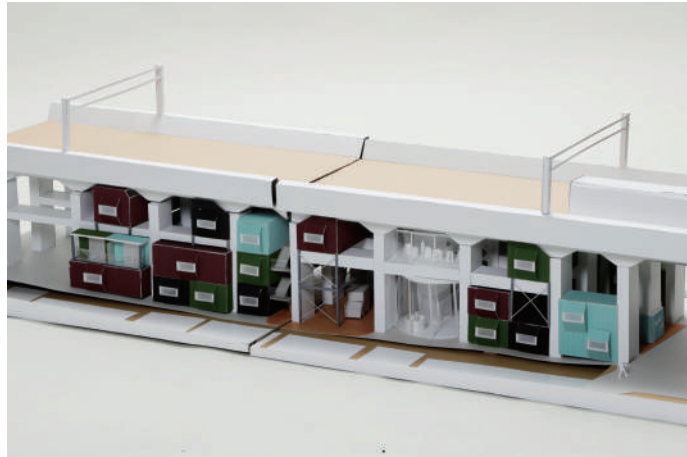


菅野 優貴「西向き斜面の居場所」

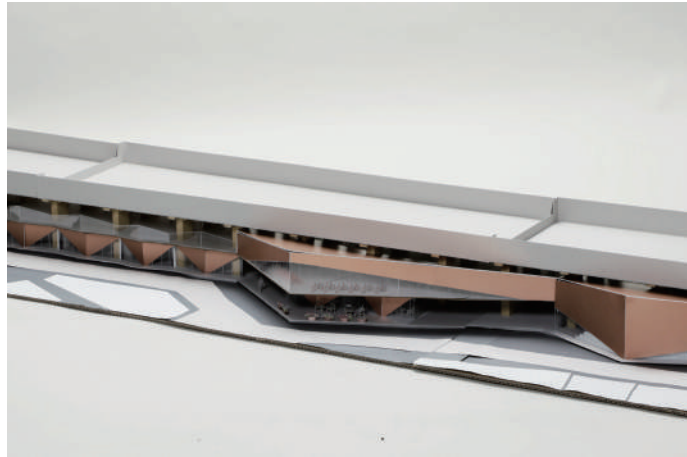
鈴木スタジオ

UNDERLINE

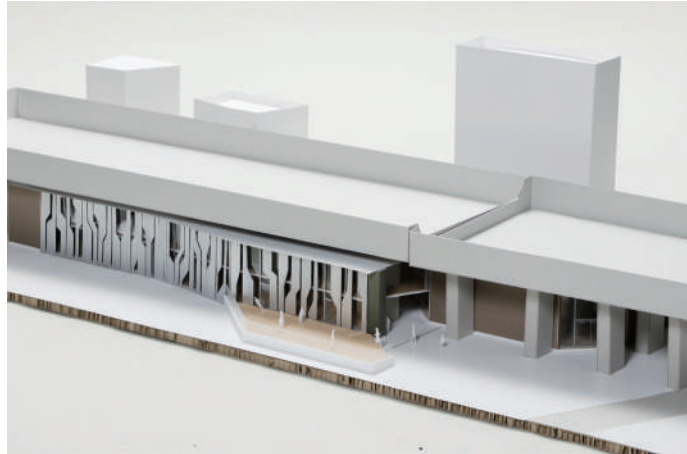
駅は私たちの生活になくてはならない交通機関ですが、コロナにより大きな転換点を迎えています。JR 東日本では人口減少や新型コロナの影響で地方鉄道の利用が落ち込む中、赤字額は合わせて 679 億円となっています。経費の削減を進めたことで、新型コロナの感染拡大前の 2019 年度と比べて赤字額は減ったものの、依然として大幅な赤字を抱える状況です。活路としてはもともと鉄道会社が所有している高架下の土地活用を行うことです。鉄道周辺の不動産を再開発して、魅力ある収益物件に変えていくなど交通から不動産による事業に大きく鉄道会社はシフトしています。また高架下活用の事例としては秋葉原の高架下開発、日本橋の高架下開発、駅舎の寮の利活用など様々な活用方法があります。なお高架下は飲食街、駐車場、商業テナント、スーパー、倉庫、自転車置き場など様々な日常があり、普段の仕事や学校にいくときに生活にかかせない場所となっています。その高架下の本来の場所が持つ魅力を生かしながら、事業としていかになりたつかを考えたいうえで高架下空間の魅力ある新しい顔を提案してください。



佐藤 優樹「路地裏の巣」



林 彩乃「菱道 -hishi michi-」



藤崎 颯太「Book cafe 1」

高橋スタジオ

場所の建築

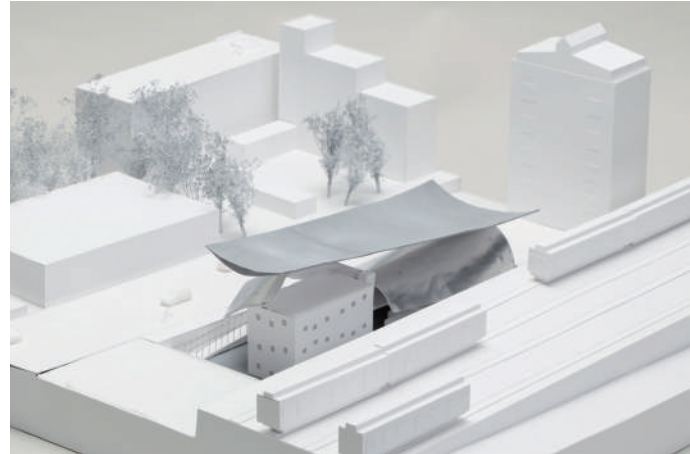
窮屈で息苦しい社会のなかで、建築が現実的な課題への応答に留まり、理想を掲げる建築が少なくなっているように思われる。あるいは場所に対する建築の応答もどこか画一的で、場所性がまるで建築の装飾のように表層的に扱われるようになって久しい。なんとなく優しい建築にまとめ上げられた文句の出ないローコストな木造外観や、建前の場所と素材のストーリー、遠くの山並みや街並みに合わせた、など、もちろん中には確かなものはあるのだろうけど、基本的には議論や批評を避けるための手段のようである。そこで、直接的に場所に関係する建築の「外観」を出発点にしながら「場所の建築」について考えてもらいたい。



末崎 詩乃「渋谷花卉 wall」



田代 綾乃「Slow down」

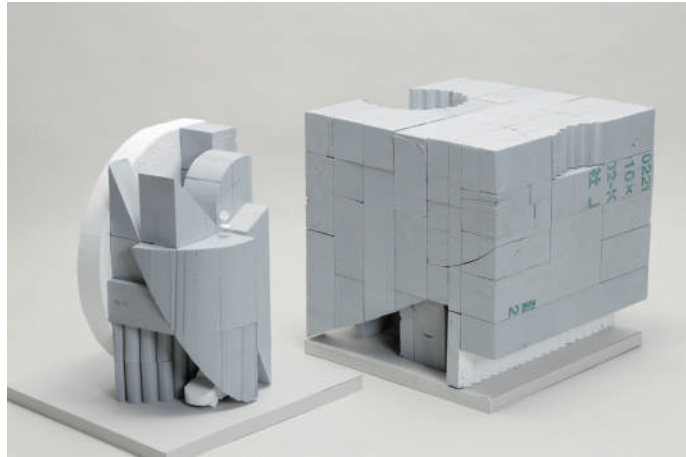


福中 彩世「意識の外側」

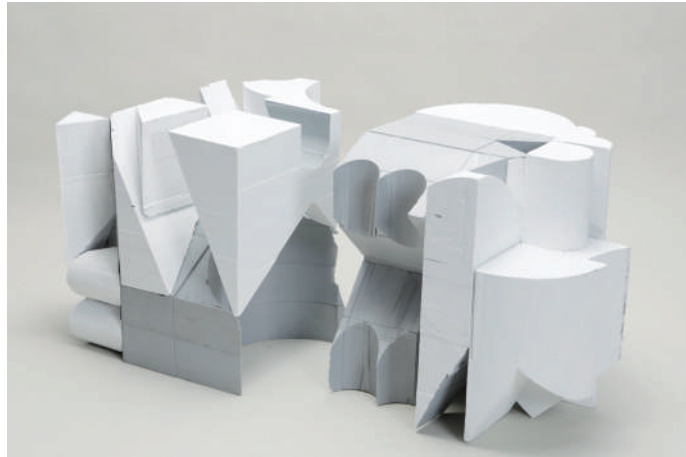
布施スタジオ

「偶然と必然」の建築

建築の形態の妥当性が、社会的な合目的性や経済合理性、あるいは環境適合性を必然的な根拠として語られることが当たり前となっている。偶然性や曖昧な理由は分かりにくい異質なものとして排除される傾向にある。しかし、今後の社会が大きく転換するならば、建築形態の根拠もおのずと問い直され、未知なるものへと差し戻されるべきなのではないだろうか。こうした状況だからこそ、根本から考え抜く哲学的思考が重要だ。なぜならば、哲学とは既知な前提を疑い、未知へと差し戻す循環行為そのものであり、その思考こそが創作の源泉なのだから。そもそも「偶然」と「必然」は表裏一体であり、明確に切り分けられるものではない。事実、私たちの日常は偶然的な事象に満ちていてではないか。本課題では、偶然という想定外の事象を受け入れ、偶然と必然の循環行為を通じて、建築を創作すること自体の意味を哲学的思考から捉えなおす。



杉山 峻涼「green scape」



平林 知也「here+here」



リ ヨウ「The history of being narrated」

小西スタジオ

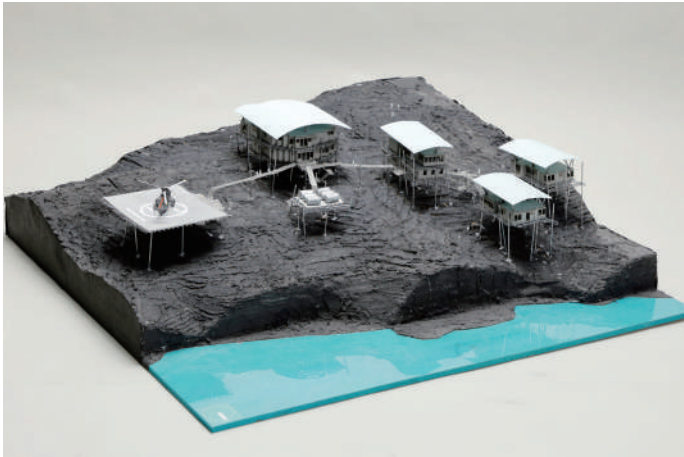
エクストリーム・アーキテクチャー

私たちの暮らすこの世界には無数の建築がありますが、そのほとんどの建築は、建築をつくりやすい場所や環境につくられているか、あらかじめ建築をつくりやすい場所や環境にととのえてからつくられています。あえてきわめて建築をつくりにくい場所や環境に建築をつくることを考えることにより、建築をもういちどその根源的なところから捉えなおして、今までにみたことのない建築をつくることができないでしょうか。そこで、通常では建築をつくることが到底できないような、きわめて特異な場所や環境を敷地として各自で想定して、そこにあるべき建築のすがたを自由に想像してください。

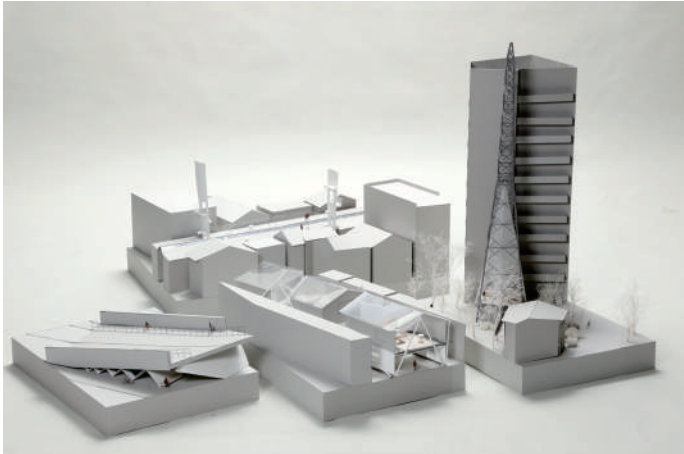
敷地は実際に存在する特異な場所でも構いませんし、実際にはありえないようなきわめて特殊な気象条件や環境を想定しても構いません。その特異な場所や環境にどのような用途や規模の建築があるべきかを考えて、その場所や環境で建築可能な材料や工法から、これまでの構造形式にとらわれない建築のすがたを提案してください。



井上 空「自然が誘う安息地」



清原 稜貴「パイルネットワーク」



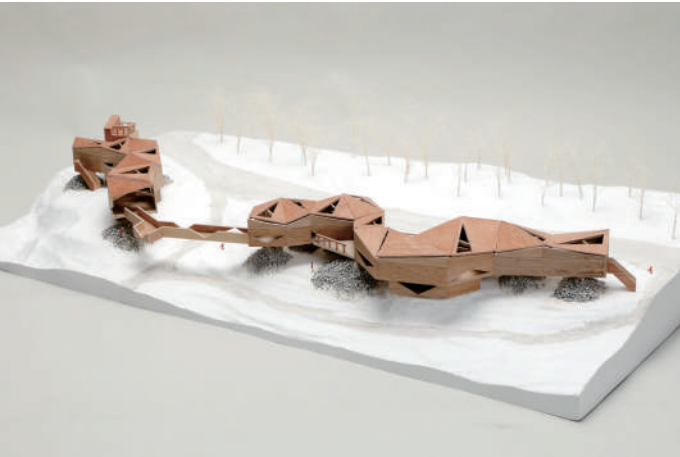
吉村 優里「下町を遺る」

菊地スタジオ

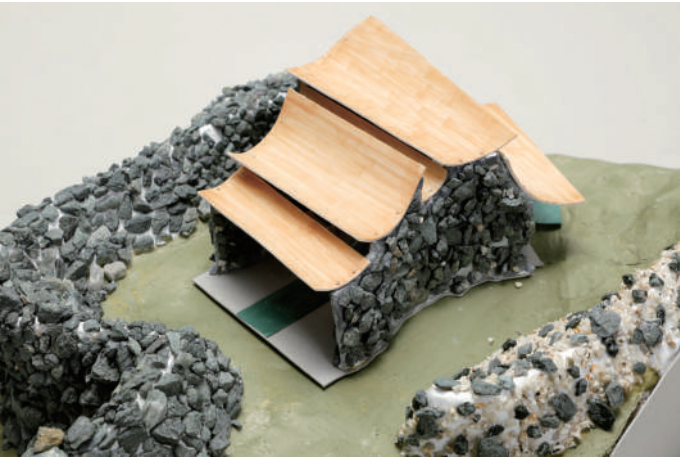
石を知り、石から建築を考える

これまでの設計課題では「敷地」と「用途」が与えられ、それに対して設計してきました。これらは将来設計の仕事をしていく上でも通常与えられます。だからその練習でした。

でも卒業設計ではその両方を自分で見つけなければなりません。どこに、何を建てるのか。意義や意図が求められます。この課題では「石」をどう扱うかを重視するので「敷地」「用途」の選定はさほど重視しなくて大丈夫です。石から建築を発想するもよし、形態を見つけるもよしです。なにかつくりたい用途があれば、例えば屋根を石でつくるというルールを自分で設定してみる。既存の石を柱に見立てて構築してみるなど自分なりに工夫してみてください。すでに石は建築にいろいろな形で使われてきました。でももっと大胆な、もっと真新しい使われ方があるのではないか。これまで考えてきた「建築」の中に石を取り込むことで自分でも思いもよらなかった発見や石の使い方がみつかるのではないか、そんな自由な「発見力」「発想力」を期待します。



武内 鈴之助「あんず石積みギャラリー」



竹内 碧月「うねりと屋根」



山下 咲香「石を纏った煙突の家」

長谷川スタジオ

軽井沢シリーズ - 中軽井沢 HUB-PARK2-

軽井沢はリゾート観光地としての側面がありますが、コロナ禍を経て、働き方・子育て・住まいに対する意識の変化により、軽井沢に移住してくる人も増えていきます。定住者、東京への通勤者、長期滞在の別荘客など様々なライフスタイルが混在するのも軽井沢の特徴です。そこで、今回は軽井沢の住人のための新たなオープンスペースの提案を行ってまいります。

多様なライフスタイルを持つ地元の住人の日常生活に目を向けた時、すぐそこにある豊かな自然環境と、日常的に利用する施設（駅、役場、スーパー、公園、教育施設 etc）の双方のポテンシャルを活かしていな居場所が多くあります。「そこにある自然環」と「地域住民の日常」の関係性を生かす場を作り、地域への愛着、人との関係、自然環境の再認識が持てる場所 / 観光地としての軽井沢に、新たな顔となる日常空間の提案を求めます。今回は駅や行政地区が集積するエリアに軽井沢の象徴である湯川と一体化した公園を提案し、「軽井沢 -HUB PARK」を考えてみます。



棚野 采由「YUKAWA community-park」



成田 七海「pocōpond」

小松スタジオ

表現する小屋

小屋をつくりましょう。

大切なことは、自らが生み出すものを介して、自分の手と頭が何を生み出そうとしているのか、ということに自覚的なること。そして更に学生同士・教授・講師と刺激しあう中で、その萌芽を育てていくことです。完成された答えだけを求めるのではなく、卒業制作に向けても、将来に向けても、自分自身が問い続けられる何かを育みましょう。

ある空間に対して小屋を作るということは、その空間に様々な規定をするということになります。そして規定をするということは、そこには必然的に、何かしらの主張や表現が伴います。これは不可避なことです。ですので、この「規定という段階」、なぜ、どうして、そしてどのようにして、小屋を規定するのか。この点にも重きをおいて課題に取り組んでください。



池田 真海「GUM house」



長岡 実紘「寂滅」



ヨウ ショウ「蔭の間」

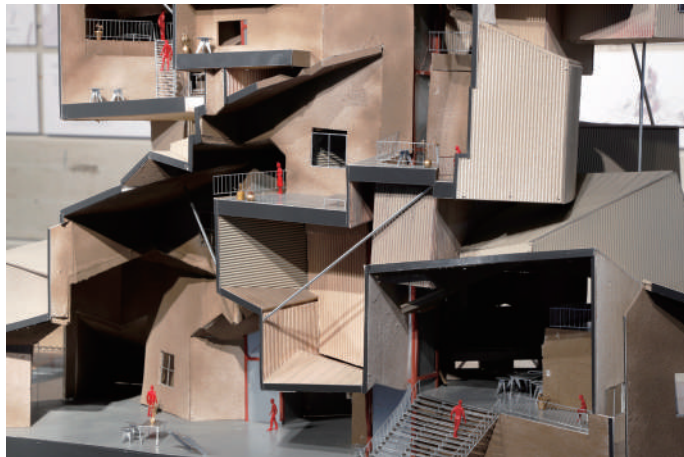
木密の寓話

吉村 優里 | 布施スタジオ | 建築設計

私は本制作にて「物語る建築」を提案する。

敷地は東京都墨田区木下川の一角。豚革産業の下町として重要な役割を担ったが、同時に穢れと嫌悪された歴史がある。

ここは日常が営まれる住宅街でありつつ、多大な闇をはらみ、確かにそこにあった。そこで、それらを「事実」ではなく「物語」にすることで、現代とは全く関係なく「過去のもの」としてとらえたい。資料の陳列だけではない「物語る」機能を持ったアーカイブ建築を提案する。

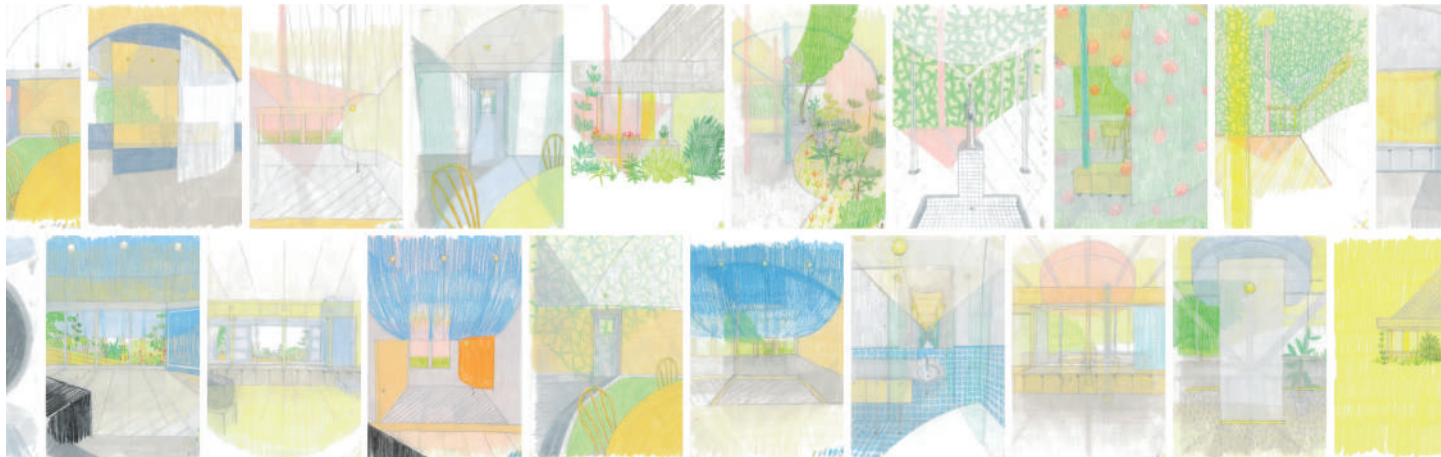


the Doctor Turns Pale,

杉山 峻涼 | 高橋スタジオ | 建築設計

夜空に散りばめられた無数の星々を見上げ、その、ひとつひとつの小さな輝きを連ねれば、きっとそこに、何億光年もの時空を横断する、あなただけのユニークな像を見出すことができるように——

卒業制作で試みたのは、ある「家」にまつわる幾つもの像を、とりとめない日常の無数の断片へと還元し、その時空横断的な性質は内包させたまま、2024年の世界へと開放するということでした。一番大きな星を掴むこと、誰よりも輝く星をつくること、そうした眩暈におそわれながら否、「大切なものは目には見えないんだ」と言って、広大な夜空の、小さな星のひとつへと選った、ある少年の言葉を思い出しています。



ワルツ

平林 知也 | 布施スタジオ | 建築設計

踊っていて踊らされている、もしくは眺めていて眺められている

[consonance]

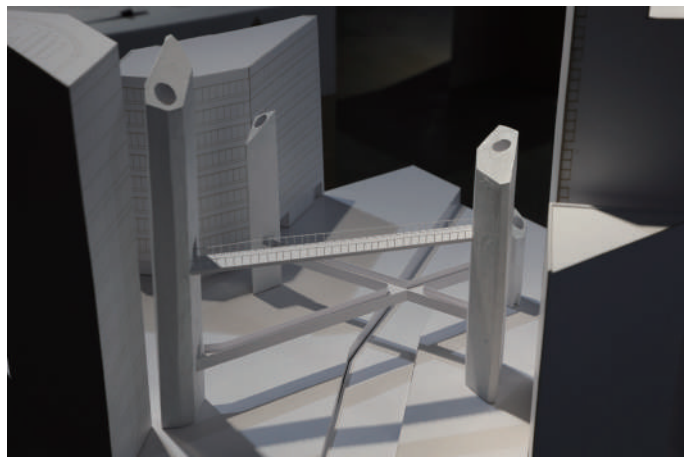
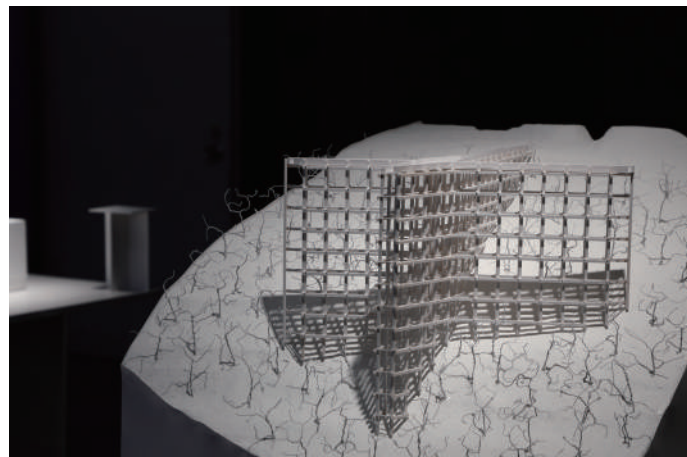
場所に適応しながら説明不可であり、新たな場所性をもたらす構築物

[conformance]

建物 - カタチ - 線の行き来、構築の相互反応によって意味をつくる設計行為

[correspondence]

言葉と建物に回収されない連関する運動としての建築



jelly space

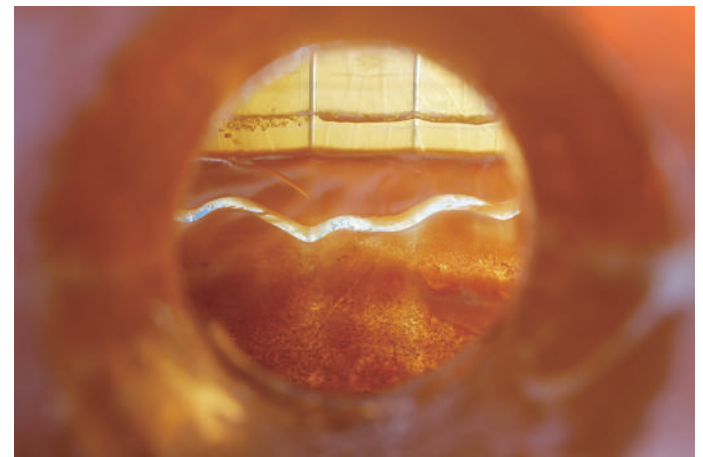
田代 綾乃 | 高橋スタジオ | インスタレーション

ゼリーで建築・空間をつくる挑戦。

子供の頃に憧れたお菓子の家と、揺らぎある空間への関心を具現化するべく、試作を繰り返してゼリーの性状を把握、作品の形と施工計画を固めた。壁、椅子、床、3つのオブジェのうちゼリーの壁は直径 2000mm 高さ 1600mm の円筒で小さな開口から中を覗ける。

ゼリーの椅子は座る事ができ、床は靴を脱いで上にあがれる。

椅子と床の上面に陽の光を反射し4号館ピロティの天井に揺らぎの像を映す。ゼリーという、未知なる触感をもち柔らかく光を通す作品が五感に働きかけてくる。



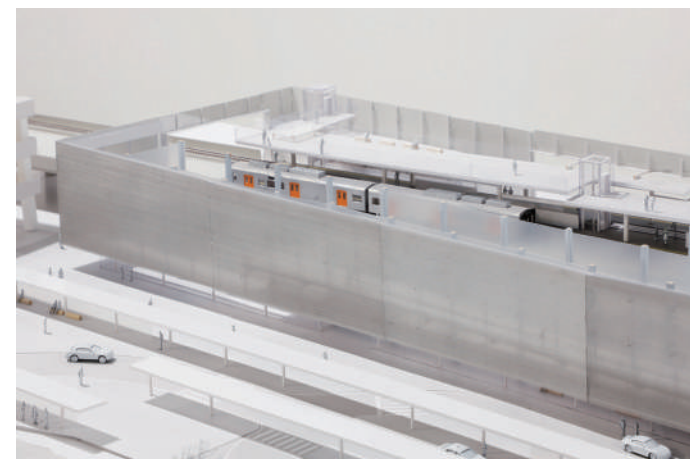
BE A GOOD SCENERY(S)

飯島 裕也 | 布施スタジオ | 建築設計

JR 長崎本線浦上駅の建て替え計画である。

敷地は昨年の新幹線開業によって都市化の過渡期にある長崎市に位置しており、観光客や地元住民が利用する。再開発によって画一化が進み、人間にとって行き過ぎた合理化が進む街に、土木・インフラ・人間のスケールを横断する駅舎を計画した。

構成、ゾーニング、ファサードは全て列車をパラメーターに設計されており、鉄道を中心にここにしかない風景を作る駅の提案である。



誰かの生活

山下 咲香 | 布施スタジオ | 建築設計

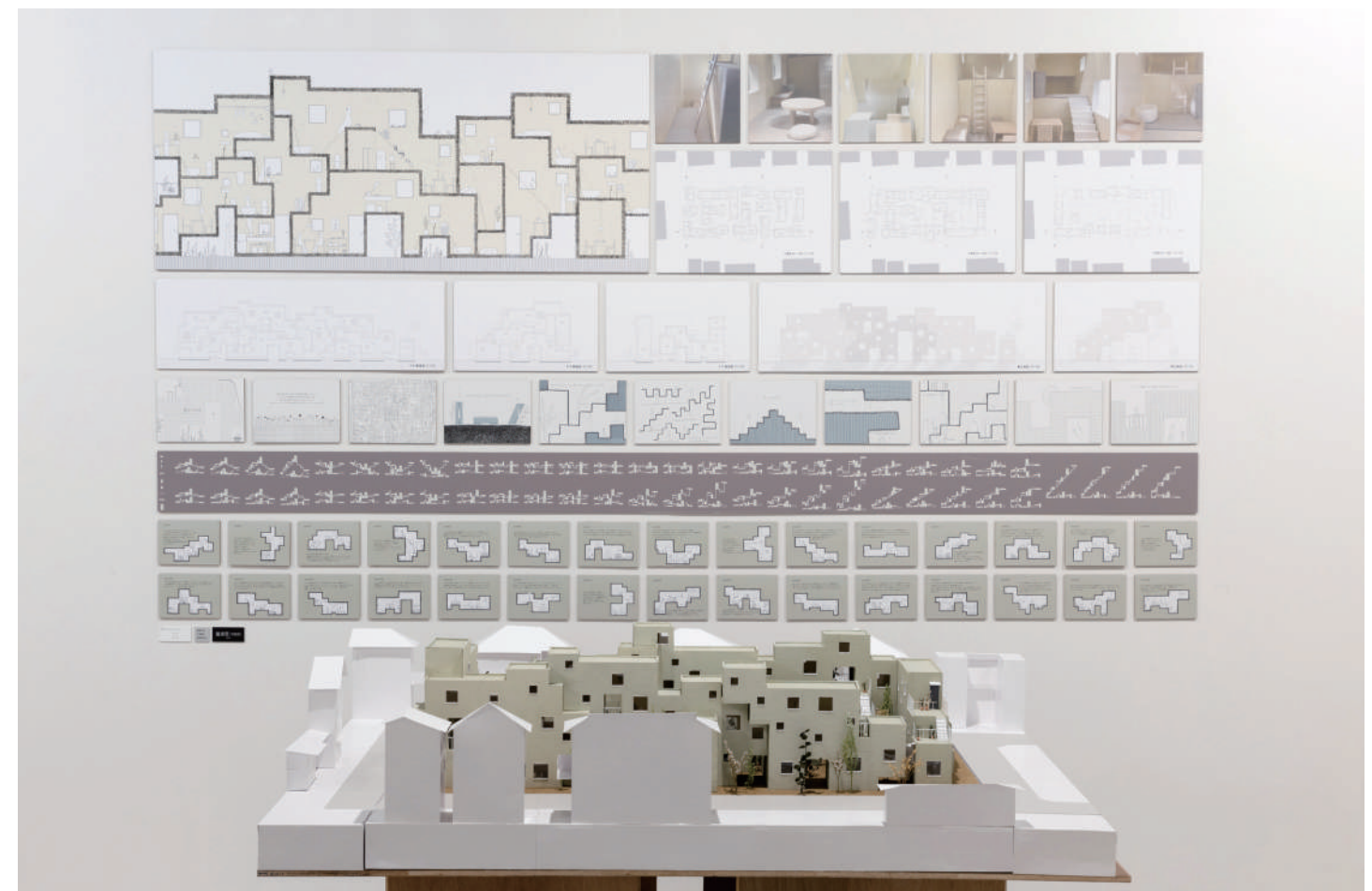
ここは 30 戸のワンルームアパートメント。

住戸がたてよこなめに伸びていき、だんだんこぼこと床・壁・天井となつて絡まり、さまざまな段差を生み、空間が切り替わります。

それが誰かの部屋に伝染して、また違う空間を作ります。

そして部屋の中を飛び出しただんだんこぼこは、バルコニーや庇、部屋までの通り道になります。

1 つの部屋から生活が生まれ、それが誰かの生活になっているのかもしれない。



Architecture Complexity Mapping patterns of Architecture

泉田 剛 | 小西スタジオ | 建築設計

この建築は、既存の超高層建築の上下をひっくり返した構成をしています。現在の超高層建築のあり方に疑問を持ち、革新的なリサーチ手法でその超克を試みます。高層階には消費施設を配置し、低層階にはオフィスを配置することで、建物の利用と都市の流れを再構築します。内部機能に加えて、全体を外骨格と内部チューブで成立させる構造的な挑戦もしています。未来の都市を縮図として建築に落とし込みデザインする試みです。



代々木八幡の森ビル

星野 友佳 | 高橋スタジオ | 建築設計

代々木公園前の敷地に計画した塔の群。自然は月日を経てできたものであり、寛大さを感じる。塔は低層部から上にいくにつれて細くなる。そして公園の木々とシンクロし多様に自然を感じられる新たな風景、内部空間を生み出す。一部くびれながら空を目指す塔の群れは風や雨で削られた岩のようである。都心の喧騒と切り離し、普段は感じることのできない感覚を体験し、人々の日常に彩りを添えることができるのではないだろうか。



防災機能がつくる居場所

田嶋 小梅 | 長谷川スタジオ | ランドスケープ

日本の沿岸部では古くから自然災害に対し護岸工事や海岸林の植栽が進められ、現在の海岸風景の一部となっているが、そうした海岸防災機能というエンジニアリングは人をあまり寄せつけず、また、景観破壊の一因となってしまう事もある。防災機能を持つエンジニアリングとデザインを融合させることで、防災のためでなく日常的に人が使える居場所が生まれ、日本の海岸風景はより賑やかになるのではないか。



空織

ヨウ ショウ | 小松スタジオ | インスタレーション

「蚕」という言葉は、「天の虫」と分解でき、「空」にも多くの意味があり、天空・空気・空間・虚空などを表す。蚕の糸は動物性タンパク質であり、「生命の織物」としての役割を果たしている。私は蚕と共に生命サイクルとアートを有機的に結びつけた空間を織りたい。昭和時代に発明された平面繭技法に基づき、模型を構築するコンセプトを導入して、繭を建築空間として再定義した。人間と自然が協働する可能性を示し、より持続可能で環境に優しいアプローチを探索している。



埋立と埋葬のはざままで

鈴木 正義 | 布施スタジオ | 建築設計

本制作の敷地は、埋立地と墓地在が谷戸と呼ばれる小さな谷地に同居する場所である。埋立地と墓地在は道を挟んで対峙しており、その構図は否応なしに埋立と埋葬という二つの行為を比較させ、強烈な類似性を感じさせる。私は埋葬を埋立のアナロジーとして捉え、埋立地を都市の墓として再解釈する。そして、二つの行為のはざまに故人を弔うための場として、また、埋め立てられたものを弔う存在としての建築を設計する。その建築は隣接する埋立地とともに埋立 / 埋葬されていき、最終的に埋立の標として立ち現れる。また、埋立完了後も、かつての谷戸の底で埋葬のための儀式が粛々と行われ続ける。



社会での活動

カリキュラムの一環として社会連携による設計課題を設けることや、課外活動にて積極的な企画参加をしています。

建築学科では、企業や自治体とのコラボレーションで、地域コミュニティづくりに実践的に関わるプロジェクトに参加し、建築やアート、ランドスケープの領域を横断して社会に向けた提案を行っています。
また海外の大学との共同ワークショップや訪問教授の招聘など国際交流プロジェクトも多数実施し、世界へ向けて発信していく人材の育成に取り組んでいます。

■ 2010 年度以降の学外プロジェクト

愛知県額田天使の森アートプロジェクト / 茨城県旧八郷地区・アートサイト八郷 / 太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ / 神楽坂プロジェクト / 笠間の菊まつりプロジェクト / 鎌倉御成町プロジェクト / 近代化産業遺産愛岐トンネルプロジェクト / 高知県佐川町プロジェクト / JR 中央ラインモール計画 / 瀬戸内・女木島プロジェクト / 常盤平アートセンタープロジェクト / 徳島県勝浦川環境アートプロジェクト / 松戸アートラインプロジェクト / 横浜黄金町再生プロジェクト / ららぽーと立飛スペースデザインプロジェクト / 陸前高田市今泉地区移転計画プロジェクト / 横瀬町プロジェクト / 小平市連携プロジェクト「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」

■ 2010 年度以降の国際交流プロジェクト

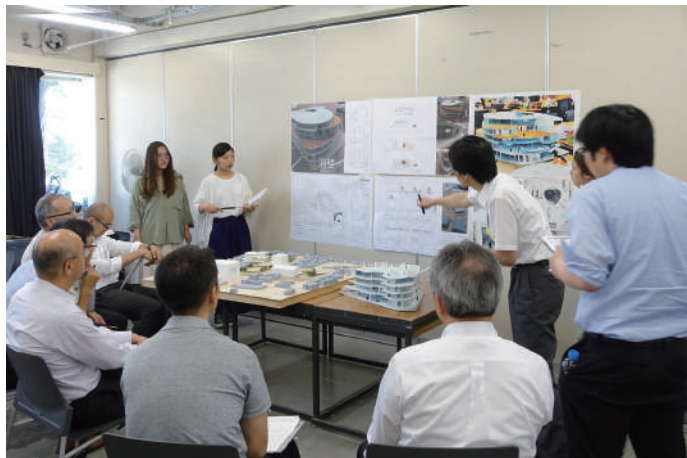
「すぎ間」から考える新しい住まい方(デンマーク王立芸術アカデミー建築学部)/ チェルシー・キャンパス・プロジェクト(ロンドン芸術大学チェルシー・カレッジ・オブ・アート・アンド・デザイン)/ 地下探訪―都市形成の変遷とカタフィル文化の考察(パリ国立高等美術学校)/ 訪問教授フィリップ・ベヌカン(フランス)/ 訪問教授ハッリ・コスキネン(フィンランド)「Light Matters」/ 訪問教授ソフィー・クレール(オランダ)「Field Essays Workshop “matter that matters”」/ 訪問教授エンリック・マシップ(スペイン)「ラーバン」



「集積あるいは変化するストラクチャル・アート」学生サマーセミナー（日本建築学会）



「フューチャースケープ・プロジェクト」象の鼻テラス開館 10 周年記念展（象の鼻テラス・横浜市）



「公共空間と公共施設から考える小平未来のまちとくらし」社会連携プロジェクト(小平市)



「影絵ワークショップ」紅葉とたてもののライトアップ（江戸東京たてもの園）



「武甲山に見える高台に作る素敵な場所の提案」官学連携プロジェクト（横瀬町）



「絵ほんかわごえ」（NPO 法人川越蔵の会）

施設紹介

鷹の台キャンパス・8 号館 3 階が、建築学科の専門科目を学ぶメインフロアになります。



建築学科研究室 | 教員の個人研究室が集約、建築学科の各種窓口となります



製図室 | 1-3 年生まで学年別の製図室で設計課題の制作を行います



講義室 | 建築学科専門科目の講義のほか、イベントや発表なども行われます



ゼミ室 | 4 年生は所属するスタジオごとに制作を行います



展示スペース | 普段はフリースペースですが、作品の展示・講評も行われます



共用工作センター | 木材・金属・デジタル加工などの機材が揃っています



工房工作室 | 工具を用いての加工や部材の組立て、実習授業の教室として使います



工房加工室 | パネルソーやスライド丸ノコ等の加工機械を使用して作業が出来ます

教員紹介

多彩な専門分野・研究テーマをもつ教員が、学生ひとりひとりの関心に合わせて指導します。



小西 泰孝 主任教授
小西建築構造設計 主宰

www.konishi-se.jp/ksl/

1970 年千葉県生まれ。95 年東北工業大学工学部建築学科卒業。97 年日本大学大学院理工学研究科修士課程修了。97 年佐々木睦朗構造計画研究所入社。2002 年小西泰孝建築構造設計設立。17 年～武蔵野美術大学教授。主な作品 (構造) に「神奈川県工科大学 KAIT 工房 (石上純也、2009 年日本建築学会賞、第 3 回日本構造デザイン賞)」、「上州富岡駅 (TNA、2014 年日本建築学会賞)」、「立川市立第一小学校 (シーラカンスアンドアソシエイツ)」、「中国美術学院民芸博物館 (隈研吾)」など。

－専門分野・研究テーマ
構造デザイン、構造設計、構造力学。建築を主とし、その他、工作物、橋梁、什器、インスタレーションなどを含んだ、様々な規模・用途に対する構造デザインの研究。

－小西スタジオのテーマ
「構造」には、地震、暴風、積雪などの自然災害力に対する防御だけではなく、建築・環境のデザインや機能をより高めることができる力があります。建築と「構造」の融合を高い水準で図り、建築をより美しく、より豊かに、より安全にすることで、地域・社会に寄与貢献することを目指します。



布施 茂 教授
建築家 / fuse-atelier 代表

fuse-studio-musabi.com
www.facebook.com/fuse.s.mau
www.instagram.com/fuse_studio_musabi

1960 年千葉県生まれ。84 年武蔵野美術大学建築学科卒業。84 年東京工業大学工学部建築学科坂本研究室研究生。85 年～第一工房、95 年同設計部長。2003 年 fuse-atelier 設立。04 年～武蔵野美術大学助教授。06 年～同教授。主な作品に「全労済情報センター」(第一工房)、「群馬県立館林美術館」(第一工房)、「House in TATEYAMA」、「House in ABIKO」、「House in TSUTSUMINO」、「House in TSUDANUMA」、「House in KANNOU」、「House in JYOUSUI-SHINMACHI」など。

－専門分野・研究テーマ
建築設計。建築におけるシーケンス、空間の分節、プロポーション、素材、ディテールの探求。

－布施スタジオのテーマ
建築設計に特化したスタジオで、実践的な建築設計や実際の建築作品を通して建築の新たな可能性を探索します。



持田 正憲 教授
MOCHIDA 建築設備設計事務所 代表

www.facebook.com/mochidastudio/
www.instagram.com/mmochida_musabi/
twitter.com/mochidastudio

1972 年神奈川県生まれ。96 年 工学院大学工学部建築学科卒業。設備設計事務所、組織設計事務所での設備設計実務を経て、18 年 MOCHIDA 建築設備設計事務所を設立。21 年～武蔵野美術大学教授。主な作品に「ROGIC-ROKI Global Innovation Center-」(小堀哲夫建築設計事務所、日本建築学会賞・JIA 日本建築大賞・BCS 賞)、「山形エコハウス」(羽田設計事務所・東北芸術工科大学)。著書に『ビル管理技術者のための設備のしくみがわかる本』(共著 オーム社) など。

－専門分野・研究テーマ
建築設備設計、建築環境デザイン、建築環境工学。建築と環境・設備の融合、建築と自然の共存、建築と人間の新しい環境。

－持田スタジオのテーマ
環境・設備的な観点からの調査・分析やさまざまな体験・体感を通して、建築環境デザインを議論し、これからの地球環境時代に対する新たな答えを探ります。



高橋 晶子 教授
建築家 / ワークステーション 共同主宰

takahashistudio.tumblr.com
www.facebook.com/ 武蔵野美術大学 - 高橋スタジオ
-616957391733124

1958 年静岡県生まれ。80 年京都大学卒業。82 年東京工業大学大学院修士課程修了。86 年博士後期課程中退。86～88 年篠原一男アトリエ。88 年高橋寛とワークステーション設立。2004 年～武蔵野美術大学教授。主な作品に「高知県立坂本龍馬記念館」(JIA 新人賞他)、「アパートメントズ東雲キャナルコート」(BCS 賞他)、「芦北町交流センター」(日本建築学会作品選奨他)。著書に『パブリック空間の本』(彰国社)。

－専門分野・研究テーマ
建築デザイン。建築の空間構成・現象の研究、パブリック性をもつ空間の研究。

－高橋スタジオのテーマ
無意識に捉えている事柄を再定義し、あらたな発見を伴う建築を目指しています。建築の構成と現象を常に同時に考えることを意識し設計を進めます。



菊地 宏 教授
建築家 / 菊地宏建築設計事務所 代表

www.hiroshikikuchi.com/?dr=studio

1972 年東京都生まれ。98 年東京理科大学大学院修士課程修了。妹島和世建築設計事務所 (SANAA)、Herzog & de Meuron (スイス・パーゼル) を経て、2004 年菊地宏建築設計事務所を設立。10 年～武蔵野美術大学准教授。18 年～同教授。主な作品に「南洋堂改修」、「大泉の家」(住宅建築賞)、「畑の見える家」などがある。著書に『菊地宏 | パスコンティヌオー空間を支配する旋律』(2013 年、LIXIL 出版)。

－専門分野・研究テーマ
建築デザイン。さまざまな素材や方法による建築の表現方法の研究と実践。

－菊地スタジオのテーマ
建築の原始的姿から現代の建築を読み解く。特に建築の足元である地面に着目し、地形と都市、地形と建築、それにまつわるさまざまなことを包括的に捉えます。



國廣 純子 教授
タウンマネージャー / 都市研究室 hclab. コアメンバー

<https://lit.link/localsustainableproject>

1976 年広島県生まれ。99 年慶応義塾大学経済学部卒業、03 年東京理科大学工二部建築学科卒業。日本銀行調査統計局、三分一博志建築設計事務所、北京新領域創成建築規劃設計有限公司を経て 10 年 都市研究室 hclab. 設立、13 年より青梅市、あきる野市、豊島区池袋北地区のタウンマネージャーとして公民連携事業推進に従事。エリア再生の計画策定、まちづくり組織の設立、コミュニティ事業支援、各種事業立案から遂行まで幅広く支援している。

－専門分野・研究テーマ
都市デザイン、まちづくり。地域 / コミュニティの合意形成を基本とし、幅広い地域資源や歴史・人などの文脈の活かし方、事業性に配慮しながら未来の地域社会に必要な建築・都市整備を充するプロセスやデザイン導入に関する研究をします。

－國廣スタジオのテーマ
地域における多様な文脈を読み解き、コミュニティ・社会貢献・事業性という視点を交えながら、現場での複合的な提案実習も行います。都市 / 郊外 / 農村を区別なく対象とし、複雑な社会変化に対応できるプロセスマネジメントや地域の新たなストーリー構築手法を身につけながら、都市デザインの研究をします。



長谷川 浩己 特任教授
オンサイト計画設計事務所 パートナー

musabi-landscape.net
www.facebook.com/musabi.landscape.hasegawa

1958 年千葉県生まれ。千葉大学を経て、オレゴン大学大学院修士課程修了。2009 年～武蔵野美術大学特任教授。「横浜ポートサイド公園」、「館林美術館 / 多々良沼公園」、「丸の内オアゾ」、「東雲 CODAN」、「星のや軽井沢」、「ハルニレテラス」、「日本橋コレドの広場」などで、グッドデザイン賞、造園学会賞、土木学会デザイン賞 (最優秀賞)、AACA 芦原義信賞、ARCASIA GOLD MEDAL、アーバンデザイン賞などを受賞。共著に『つくること、つくらないこと』(学芸出版社) など。

－専門分野・研究テーマ
ランドスケープ・アーキテクチャ。実務をとめない、小さな庭から大きな都市スケールまで、コミュニティから経済的根拠までカバーしつつ、デザインの価値を考える。

－長谷川スタジオのテーマ
自分という部分から、風景という全体を考えていきたい。対象が大きく関わる人も多いので、スタジオではディスカッションを重視し、皆が共有できるビジョンを掲げられるデザイナーを目指しています。



永山 祐子 客員教授
建築家 / 永山祐子建築設計 主宰

<http://www.yukonagayama.co.jp/>
※スタジオは開設していません

1975 年東京生まれ。1998 年昭和女子大学生生活学科卒業。1998 年青木淳建築計画事務所勤務。2002 年永山祐子建築設計設立。主な仕事、「LOUIS VUITTON 京都大丸店」、「豊島横尾館」、「女神の森セントラルガーデン」、「ドバイ国際博覧会日本館」、「東急歌舞伎町タワー」など。JIA 新人賞 (2014)、山梨県建築文化賞、東京建築賞優秀賞 (2018)、照明学会照明デザイン賞最優秀賞 (2021)、World Architecture Festival Highly Commended (2022) など。現在、2025 年大阪・関西万博「パナソニックグループパビリオン『ノモの国』」と「ウーマンズパビリオン in collaboration with Cartier」, Torch Tower (2027 年度) などの計画が進行中。

－専門分野・研究テーマ
建築設計、人と環境・人と人が繋がるきっかけとなるデザイン

－学生に期待すること・メッセージ
私は建築に携わることで色々な世界に触れ、社会の仕組みを知ることができました。今後どんな方向に進もうと役立っていくと思います。

講師

青木 弘司	(設計計画Ⅲ -2・Ⅳ)	三幣 順一	(設計計画Ⅲ -2)
荒 真一	(構造力学Ⅱ)	渋谷 桂子	(環境生態学特論)
安藤 聡	(写真表現)	杉山 経子	(建築材料学・実験Ⅱ)
伊藤 友紀	(建築設計表現)	鈴木 竜太	(設計計画Ⅰ-1 / Ⅰ-2)
岩下 泰三	(図学)	高沖 哉	(環境計画 b)
上田 明宏	(建築施工Ⅰ / Ⅱ)	高木 利彰	(建築材料学・実験Ⅰ)
上田 宏	(写真表現)	高橋 卓	(設計計画Ⅳ)
植田 美佳	(基礎数学)	田口 明美	(建築設備・実験Ⅱ)
奥野 公章	(設計計画Ⅲ -2)	田原 唯之	(設計計画Ⅳ)
奥村 誠一	(建築構法、建築構法特論)	田宮 晃志	(設計計画Ⅱ -2)
笠置 秀紀	(建築設計表現)	戸井田 雄	(造形演習)
加藤 修	(環境生態学Ⅰ / Ⅱ)	富永 信忠	(建築法規Ⅰ / Ⅱ)
金田 未来	(設計計画Ⅱ -1)	中川 純一	(設計計画Ⅳ)
金香 昌治	(設計計画Ⅲ -2)	中村 幸悦	(構造力学Ⅰ)
狩野 佑真	(設計計画Ⅲ -1)	中村 寛	(環境計画 b)
川嶋 貴介	(設計計画Ⅳ)	中村 秀親	(建築設備・実験Ⅱ)
川村 政治	(建築設備特論)	野本 哲平	(造形総合・デザインⅡ)
黒澤 未来	(構造力学基礎)	畠山 鉄生	(設計計画Ⅱ -2)
河野 悟	(建築設計基礎、建築設計特論)	林 英理子	(設計計画Ⅳ)
後藤 武	(建築意匠 B)	針谷 将史	(設計計画Ⅲ -1)
小林 敦	(建築設計基礎)	平井 政俊	(設計計画Ⅲ -1)



小松 宏誠 特任准教授
アーティスト

<http://kosei-komatsu.com/mau/top.html>

1981 年徳島県生まれ。2004 年に武蔵野美術大学建築学科卒業、2006 年に東京藝術大学大学院修了後、アーティストグループ「アトリエオモヤ」のメンバーとして、自然の物理現象に着目した作品制作を開始。2014 年に独立。「浮遊」や「鳥」への興味からはじまり、現在では「軽さ」「動き」「光」に着目した作品を展開中。美術館での作品展示をはじめ、商業施設など大空間での空間演出も行う。

－専門分野・研究テーマ
建築と美術、環境造形、空間表現。実践的な活動を通し、建築と美術の領域から生まれる総合的表現を探究します。

－小松スタジオのテーマ
建築と美術の領域からはじまり、幅広い想像力と関係性で、社会における新たな価値・役割を発見し生き抜くクリエイターを育てたいと考えています。



大島 芳彦 客員教授
建築家 / 株式会社ブルースタジオ クリエイティブディレクター

※スタジオは開設していません

1970 年東京生まれ。1993 年武蔵野美術大学建築学科卒業。南カリフォルニア建築大学大学院を経て 1997 年 石本建築事務所勤務。2000 年ブルースタジオ一級建築士事務所。主な作品「Lattice Aoyama」、「たますびテラス」、「まちのこども園代々木公園」、「hocco」、「ユクサおおすみ海の学校」、「福島県双葉町災害公営住宅・えきにじ住宅」、「ホシノタニ団地 (グッドデザイン ファイナリスト金賞)」、「北条まちづくりプロジェクト -morineki- (都市景観大賞・国土交通大臣賞)」、「リノベーションスクールを通じた人材育成と地域再生事業 (日本建築学会教育賞)」

－専門分野・研究テーマ
建築設計、リノベーション、コミュニティーデザイン、地域再生

－学生に期待すること・メッセージ
建築物とは空間資源であり「社会的共有資本」。活きた建築を生み出すために建築家に必要な能力は社会環境に対する飽くなき好奇心とフットワークです。

研究室スタッフ

廣瀬 健	(設計計画Ⅲ -2)	助手	宇佐美 喜一郎
藤原 工	(建築設備・実験Ⅱ)		大関 龍一
古澤 大輔	(設計計画Ⅳ)		北島 未来
帽田 秀樹	(建築計画 C)		木村 幸伸
星野 千絵	(設計計画Ⅱ -2)		平川 凌成
細野 達哉	(庭園史)		山下 咲香
増田 信吾	(設計計画Ⅳ)		
水上 哲也	(設計計画Ⅱ -1)		
三家 大地	(設計計画Ⅲ -1)		
宮内 義孝	(設計計画Ⅳ)		
山内 彩子	(環境計画 b)		
山家 明	(設計計画Ⅱ -1)		
山田 陽平	(設計計画Ⅰ-1 / Ⅰ-2 / 造形総合・デザインⅡ)		
山村 尚子	(設計計画Ⅱ -1)		
山本 大介	(設計計画Ⅱ -2)		
吉澤 真太郎	(ランドスケープデザイン近代史)		

※教員紹介は、2024 年度の在職状況を記載しています。



安藤 雅敏
大林組設計本部
設計部長



「大正大学図書館」(2021 年)
グッドデザイン賞、iF Design Gold Award 受賞

ー現在のお仕事について
あらゆるタイプの建築物を設計する大きな組織の中で、教育施設やリノベーションを手掛けています。
ームサビで学んだこと
他分野との刺激的な交流を通じ、自然と幅広い視野で建築を考えるようになりました。



大堀 伸
ジェネラルデザイン
代表



「Reload Shimokitazawa」(2021 年)

ー現在のお仕事について
商業施設や個人住宅の建築設計から、ショップや飲食店のインテリアデザインなどを行っています。
ームサビで学んだこと
ものをつくる様々な分野の友人との対話、つながりの大切さ。



野村 哲
日建設計
都市社会基盤部門
都市デザイン部長



「上海：西岸伝煤港（メディアポート）」(2023 年)
2023 上海国際都市設計賞 受賞

ー現在のお仕事について
組織設計事務所に所属しながら、国内・海外の大規模マスタープランや都市デザインに携わっています。
ームサビで学んだこと
建築設計だけでなく、都市スケールから素材、コンセプトから実践まで幅広い経験を積むことが出来ました。



鈴木 莉紗
日本放送協会
デザインセンター
映像デザイン部 デザイナー



「第 71 回 NHK 紅白歌合戦」(2020 年)

ー現在のお仕事について
美術セットや CG、グラフィックのアートディレクションを行いながら、番組のビジュアル全般を担当しています
ームサビで学んだこと
先生や仲間との刺激的な交流から、モノを生み出す情熱や、挑戦する楽しさを教わりました。



小坂 竜
乃村工藝社
チーフデザインオフィサー
A.N.D. 代表



「The Hotel Seiryu Kyoto Kiyomizu」京都 (2020 年)

ー現在のお仕事について
大きな会社に属しながら、青山にも事務所を構え、国内外の上質なホテル・レストラン・レジデンスなどのデザインをしています。
ームサビで学んだこと
色んなジャンルのモノをつくる仲間がいるので、モノをつくる楽しさと厳しさを経験することができました。



田中 裕大
株式会社 竹中工務店
東京本店 設計部主任

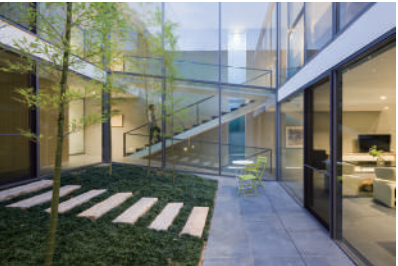


「東京ミッドタウン八重洲」(2022)

ー現在のお仕事について
東京ミッドタウン八重洲の設計に携わり、現在は銀座テナントビルの改修計画や学生寮の設計を行っています。
ームサビで学んだこと
あらゆる表現を尊重する姿勢、経験と知識の偏りがオリジナリティになること、モノや現象に与える言葉の大切さ。



横田 典雄
CASE DESIGN STUDIO
代表



「野毛の家」(2017 年)
撮影＝新建築社

ー現在のお仕事について
主に住宅や別荘などを設計。どのような用途になっても成立する空間性を獲得するように意識し、バランスがとれた建築を目指しています。
ームサビで学んだこと
様々な分野の人々から、理屈ではない美しさや力強い自由など、自分に足りないものを感じることができました。



池川 健太
(株) 博報堂
クリエイター / プランナー



Google Chromebook プロモーション (2019 年～)

ー現在のお仕事について
Google Chromebook、日本コカ・コーラ 綾鷹、メルカリ、Amazon など多くのグローバルブランドや先端 IoT 家電などの事業開発から広告設計まで担当。
ームサビで学んだこと
建築的な思考は、建築だけではなくあらゆる領域に活かせる事が出来ます。制作だけに没頭できる環境があった事に今ではとても感謝しています。

主な就職先

■アトリエ系建築設計事務所

芦原太郎建築事務所、APOLLO Architects & Associates、アライイリエアーキテクト、アンドウ・アトリエ、石上純也建築設計事務所、乾久美子建築設計事務所、畝森泰行建築設計事務所、O.F.D.A、小川晋一都市建築設計事務所、オンデザインパートナーズ、カスヤアーキテクトオフィス、城戸崎建築研究室、限研吾建築都市設計事務所、佐久間徹設計事務所、SALHAUS、SANAA、スキーマ建築計画、スタジオプラナ建築設計事務所、團紀彦建築設計事務所、都留理子建築設計スタジオ、手塚建築研究所、中川エリカ建築設計事務所、永山祐子建築設計、NAP 建築設計事務所、成瀬・猪熊建築設計事務所、能作淳平建築設計事務所、袴田喜夫建築設計室、坂茂建築設計、彦根建築設計事務所、藤本壮介建築設計事務所、fuse-atelier、ブルースタジオ、細矢仁建築設計事務所、横総合計画事務所、増田信吾 + 大坪克亘、光井純 & アソシエーツ建築設計事務所、ミリグラムスタジオ、矢萩喜俊郎建築計画、山本理顕設計工場、横内敏人建築設計事務所、ヨコミゾマコト建築設計事務所、吉村靖孝建築設計事務所、ワークステーション、若松均建築設計事務所、403architecture[dajiba]

■組織設計事務所

あい設計、相和技術研究所、池下設計、伊藤喜三郎建築研究所、梅沢設計、日建設計、日本設計、日本建築構造センター、バックグランド、プランテック総合計画事務所、三輪設計事務所、UDS、類設計室

■建設会社

青木あすなろ建設、大林組、小川建設、鹿島建設、鴻池組、清水建設、大成建設、JR 東日本、JR 東日本都市開発、新三平建設、大同工業、大和小田急建設、高松建設、竹中工務店、戸田建設、フジタ、平成建設、森ビル、ヤマウラ

■住宅メーカー

アキュラホーム、飯田産業、エス・バイ・エル、オープンハウス・アーキテクト、スウェーデンハウス、住友林業、積水ハウス、大和ハウス工業、タマホーム、東急ホームズ、東京セキスイハイム、トヨタホーム東京、ニッソー住宅、パナホーム、ポラスグループ、ミサワホーム、三井ホーム、ヤマネホールディングス、ユウキ建設

■不動産業

エスケーホーム、王子不動産、木下不動産、サジェスト、JR 東日本ビルディング、大東建託、東京建物、日神不動産、野村不動産パートナーズ、三井不動産リアルティ、三菱地所プロパティマネジメント

■ランドスケープデザイン

オンサイト計画設計事務所、スタジオテラ、ソラ・アソシエイツ、ランドスケープデザイン、ランドブレイン、デザインネットワークアソシエイツ

■インテリア・ディスプレイ

イニシャルジャパン、イリア、インテンショナリーズ、ウエル・ユーカン、エイククリエイツ、遠藤照明、岡村製作所、グリーンディスプレイ、小林工芸社、ココロ、コトブキ、ジーク、GK デザイン、ジールアソシエイツ、昭栄美術、スペース、船場、ソーケン、高島屋スペースクリエイツ、タカラスペースデザイン、竹内デザイン、丹青社、ツクルバ、デザインアートセンター、ドラフト、夏水組、日建スペースデザイン、乃村工藝社、博展、ハコリ、三越伊勢丹プロバティ・デザイン、ルーヴィス、ワンダーウォール

■ファッション

アズノウアズ、イッセイミヤケ、エース、オンワード樫山、貴和製作所、ケイ・ウノ、コムデギャルソン、ベイクルーズ、丸高衣料、リデア

■舞台

劇団四季、シミズオクト、日本ステージ

■メディア

アサツーディ・ケイ、NHK、光文社、商店建築社、新建築社、新潮社、タツノコプロ、TCJ、TBS テックス、テレビ朝日、日本テレビアート、フォアキャスト・コミュニケーションズ、ホビージャパン、マルモ出版

■広告・グラフィックデザイン

アマナホールディングス、電通テック、凸版印刷、ナカサアンドパートナーズ、博報堂アイ・スタジオ

■官公庁

宮内庁、宮城県庁、昭島市役所、川崎市役所、神戸市役所、調布市役所

■その他

NTT データ・ファイナンシャルコア、クレスコ、湘南ゼミナール、TOTO エキスパート、日大グラビヤ、ニューファニチャーワークス、日比谷花壇、福武財団、ベネッセスタイルケア、MAG BY LOUISE、丸井、ムーンスター、無印良品 (上海) 商業有限公司、UT コンストラクション・ネットワーク、ルビシア、レクシア

主な進学先・留学先

武蔵野美術大学大学院、東京大学大学院、東京藝術大学大学院、東京工業大学大学院、東京理科大学大学院、早稲田大学大学院、慶應義塾大学大学院、明治大学大学院、同志社大学大学院、東京都立大学、横浜国立大学大学院、筑波大学大学院、千葉大学大学院、東北大学大学院、大阪大学大学院、大阪市立大学大学院、京都芸術大学大学院

AA スクール、オスロ建築デザイン大学、カタルーニャ工科大学、グラスゴー美術学校、プラットインスティテュート、ミラノ工科大学、ロンドン芸術大学

在校生・卒業生の受賞

■2023 年

「JIA 関東甲信越支部第 22 回大学院修士設計展 2024」奨励賞：鈴木 正義
「日比谷ランドスケープデザイン展 2024」優秀賞：成田 七海
「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond オーディエンス大賞」グランプリ：加藤 美紗
「2023 年度第 48 回全国伝統的工芸品公募展」入選：當眞 嗣人
「木の家設計グランプリ 2023」U20 賞：内田夏々子・大西明日香
「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2023 beyond」有馬温泉太閤の湯賞：加藤美紗
「がまごおり公共建築学生チャレンジコンペ 2023」
優秀賞：飯島あゆみ・大月菜子 佳作賞：飯島裕也・杉山峻涼

■2022 年

「JIA 東京都卒業設計コンクール 2022」工藤賞：古川 隼也
「日本造園学会学生公開デザインコンペ」入賞：長谷川 ゆい・王 雪純(グループ応募)
「住宅建築賞 2022」金賞：畠山 鉄生 + 吉野 太基
「いちこやプロジェクトコンペ」採択：滝川 寛明
「建築学縁祭～ Rookie 選～」最優秀賞：吉村 優里 佳作：山田 遼馬
「建築新人戦 2022」優秀新人賞：吉村 優里 16 選：山田 遼馬
「Vectorworks デザインスカラシップ 2022」最優秀賞：三原 陽莉 長谷川 ゆい
「2022 年度グッドデザイン賞」：棚橋 玄
「第 22 回住宅課題賞 2022」植田実賞：宮地 凌央
「せんだいデザインリーグ 2023 卒業設計日本一決定戦」日本三：奥田 涼太郎
「トウキョウ建築コレクション 2023 全国修士設計展」藤本 壮介賞：三原 陽莉
「日比谷ランドスケープデザイン展 2023」最優秀賞・石上純也賞：長谷川 ゆい
「第 29 回空間デザインコンペティション」入選：杉山 峻涼

■2021 年

「全国合同卒業設計展 卒、22」優秀賞、クリティーク賞(多田脩二賞)：古川 隼也
「赤れんが卒業設計展 2022」101 選：古川 隼也
「第 31 回 JIA 東京都卒業設計コンクール 2022」工藤賞：古川 隼也
「第 28 回 空間デザイン・コンペティション『野生のガラス』」入選：若杉 陸
「日比谷ランドスケープデザイン展 2022」優秀賞：半田 心
「第 13 回ハーフェル学生コンペティション 2021」最優秀賞：長谷川 ゆい、三原 陽莉
「第 44 回学生設計優秀作品展ー建築・都市・環境ー」レモン賞：近藤 直輝
「第 29 回 UBE ビエンナーレ」
実物制作指定作品 15 選：當眞 嗣人、井口 雄介、中村 厚子 入選作品 40 選：近藤洋平
「建築新人戦 2021」優秀新人賞：始良 壮志、8 選受賞：宮地 凌央
16 選受賞：阿部 朔太、100 選：広瀬 了、奥田 涼太郎、吉村 優里
「SD レビュー 2021」入選：天野 亮平、西本 光
「日本造園学会全国大会 2021 学生デザインコンペ」入賞：長谷川 ゆい



「日本空間デザイン賞 2019」ショップ空間 金賞「NSK MUSEUM」佐々井 歩
写真：ナカサ&パートナーズ 河野 政人

2025年度 建築学科 入学試験情報

一般選抜 募集 62 名

一般方式 募集 35 名 本学独自の国語・外国語 ・専門試験	共通テスト 2 教科 ＋ 専門試験方式 募集 15 名 大学入学共通テスト ＋ 本学独自の専門試験	共通テスト 3 教科方式 募集 12 名 大学入学共通テストのみ
国語・外国語科目 ①国語 100 点 ②外国語 100 点	選択 2 科目 ①国語 / 外国語 / 数学 のうち 1 科目選択 100 点 ②選択科目 100 点	必須 1＋選択 2 科目 ①外国語 100 点 ②国語 / 数学 のうち 1 科目選択 100 点 ③選択科目 100 点
専門試験科目 ③鉛筆デッサン / 数学 どちらか 1 科目選択 200 点		

総合型選抜(自己推薦) 募集 10 名

■一般方式 (学校長推薦不要・評定平均値指定なし) 自己推薦調書による第一次選考と、表現力テスト＋グループ面接による第二次選考で、建築学科で学ぼうとする関心の高さを主眼として選抜します。 出願に先立って希望者には「事前面談」を実施します。 ■出願可能年齢 2025年4月1日時点で満28歳以下の者

造形研究科修士課程 デザイン専攻建築コース

大学院修士課程選抜

■選考方法 ①即日設計 / 小論文 のうち 1 科目選択 ②プレゼンテーションおよび面接
■提出作品 近作 1 点 ポートフォリオ (近作 3 点以上) または論文

入学試験に関する情報・お問い合わせ

※入学試験概要、募集要項、過去の入試問題など詳細は、本学ウェブサイト「入試情報」よりご確認ください。
武蔵野美術大学 www.musabi.ac.jp
入学センター tel: 042-342-6995 (月 - 土 / 9:00 ~ 16:30) ※祝日を除く
e-mail: nyushi@musabi.ac.jp

学部卒業後に取得可能な資格

- ・一級建築士受験資格
- ・二級建築士受験資格
- ・木造建築士受験資格
- ・学芸員 (別途、科目履修が必要となります)

※一級建築士の免許登録には 2 年以上の実務経験が必要となります。

※大学院は建築士試験の大学院における実務経験要件に対応しています。

大学院で開講している科目の単位取得数により、建築士試験の大学院における実務経験年数 1 年または 2 年が認定されます。

詳しくは研究室にお問い合わせください。

※本学科には教職課程は設置されていません。

武蔵野美術大学建築学科 学科紹介 2025

2024 年 6 月 1 日発行

発行：武蔵野美術大学建築学科研究室

〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736

tel: 042-342-6067 fax: 042-344-1599

mail: arc@musabi.ac.jp

website: www.arc.musabi.ac.jp

facebook: www.facebook.com/arc.musabi

企画編集：建築学科研究室 (大関 龍一、平川 凌成)

デザイン：入江 剛史

写真撮影：村松 聡、大関 龍一、建築学科研究室

印刷：株式会社アトミ

表紙作品：吉村 優里「木密の寓話」

(2023 年度卒業制作 金賞・優秀賞)

